

(案)

資料 1



2021年〇月
愛知県
食育推進会議

はじめに

愛知県では、食育基本法に基づき、県民一人一人が食の大切さを理解して、主体的に食育に取り組むための指針として、2016年3月に第3次愛知県食育推進計画である「あいち食育いきいきプラン2020」を作成しました。

このプランで掲げた「食育の実践による健康で活力ある社会の実現」のために、知事を会長として、学識経験者、教育関係者、保育・社会福祉関係者、医療・保健関係者、農林水産業関係者、食品関連事業・企業関係者、消費者団体関係者等により構成される「愛知県食育推進会議」を中心に、県、市町村、団体、事業者などがそれぞれの役割と特性を生かし、様々な連携・協力しながら継続的な県民運動として食育活動を展開しています。

この度、このプランの最終年度を迎え、各目標の達成状況について整理するとともに、2020年度に行われた県内の食育推進の取組の中から、特に①新規の取組又は5年以上継続して行われている取組、②複数の関係者が連携して行った取組をレポートとして取りまとめました。

本書が皆さんの食育活動の幅を広め、それぞれの地域にあった食育推進の一助となれば幸いです。

マークの説明



は、健康な体



は、環境に優しい暮らし



は、豊かな心



は、食育を支える取組

を表現しています。

目 次

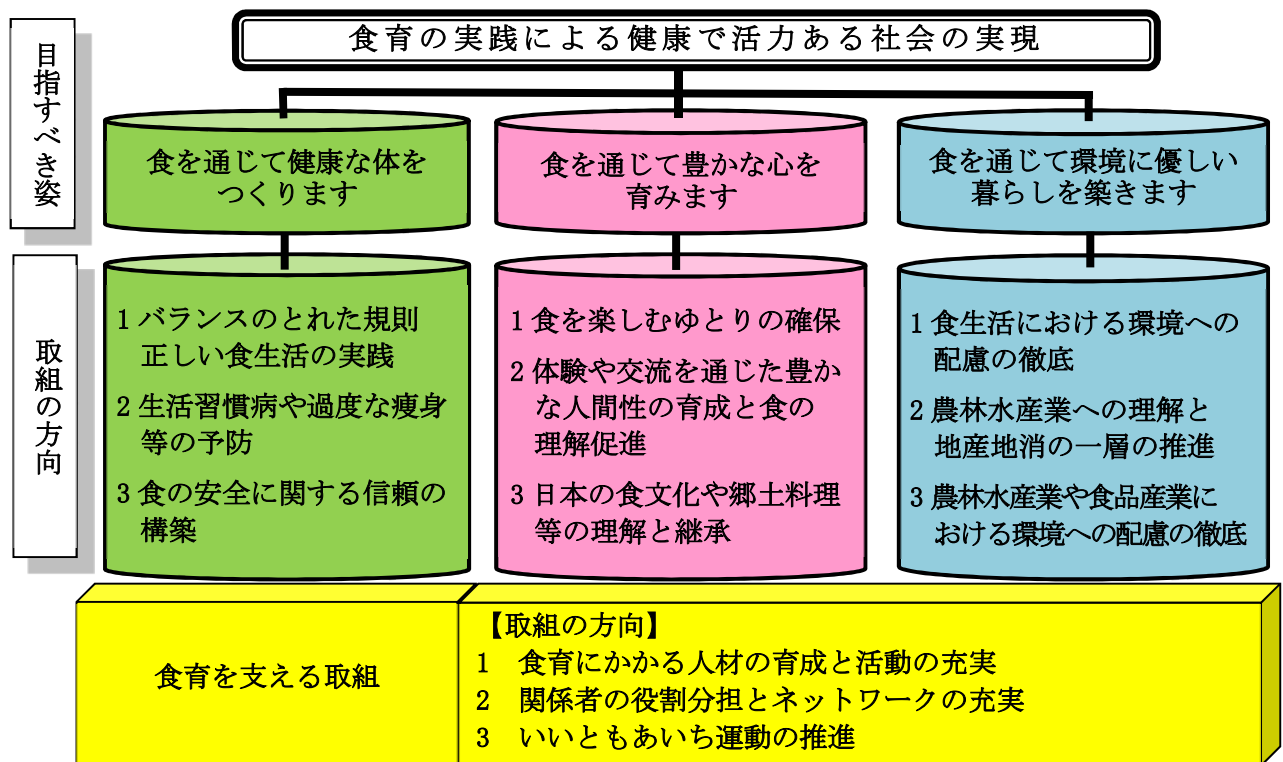
I	「あいち食育いきいきプラン 2020」の最終年度を迎えて	1
II	「あいち食育いきいきプラン 2025」について	15
III	特集 第5回食育活動表彰について	16
IV	2020年度の主な取組の状況	17
	食を通じて健康な体をつくるために	17
1	バランスのとれた規則正しい食生活の実践	17
2	生活習慣病や過度な痩身等の予防	24
3	食の安全に関する信頼の構築	25
	食を通じて豊かな心を育むために	26
1	食を楽しむゆとりの確保	26
2	体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進	28
3	日本の食文化や郷土料理等の理解と継承	34
	食を通じて環境に優しい暮らしを築くために	40
1	食生活における環境への配慮の徹底	40
2	農林水産業への理解と地産地消の一層の推進	42
3	農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底	45
	食育を支える取組	46
1	食育にかかる人材の育成と活動の充実	46
2	関係者の役割分担とネットワークの充実	48
3	いいともあいち運動の推進	49
V	県や関係団体の取組一覧	50
VI	食育推進に関する問い合わせ先	60

I 「あいち食育いきいきプラン 2020」の最終年度を迎えて

「あいち食育いきいきプラン 2020」（第3次愛知県食育推進計画）は、食育基本法に基づき、愛知県食育推進会議が第1次食育推進計画「あいち食育いきいきプラン」及び第2次食育推進計画「あいち食育いきいきプラン 2015」の基本理念や成果を継承しつつ、更に食育を推進するために2016年3月に作成したものです。

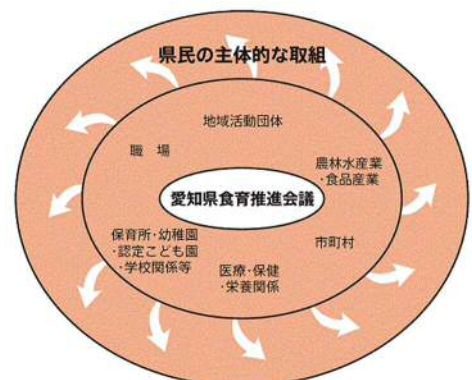
1 目指すべき姿と基本コンセプト

- このプランでは、前プランからの本県の特色である「体」、「心」、「環境」に着目した食育を継承することにより、健康で活力ある社会の実現を目指しています。
- 規則正しい食生活の実践などにより「健康な体をつくる」ことはもとより、感謝の気持ちや食を大切に作る心といった「豊かな心を育む」こと、地産地消の推進や食品の廃棄量を減らすなどの「環境に優しい暮らしを築く」ことを基本としています。



2 取組の特徴

- あらゆる世代の県民が健全な食生活を送り、心身ともに健康で豊かに暮らすためには、生涯を通じた間断のない食育が重要です。
このため、乳幼児から高齢者に至るまで、ライフステージと生活場面に応じた切れ目のない食育を進めています。
- また、食育に関する取組の実効性を高めるため、多様な関係者が、その役割と特性を生かしつつ、密接に連携・協力して、県民運動として食育を展開しています。



3 県や関係団体等の取組

食育の推進について、県や関係団体等は、あいちの食育が目指す3つの方向に則して、ライフステージと生活場面に応じ、それぞれの役割と特性を生かしつつ連携・協力して、継続的に情報提供や実践促進活動を行っています。

以下では、取組を働きかける生活場面を下記のとおりに表示

保幼 保育所・幼稚園 職場 勤務先
学校 小学校～大学 地域 その他の場所

■ 取組の体系

取組の体系	取組の目的	取組の内容	生活場面			
			保幼	学校	職場	地域
食を通して健康な体をつくるために 食を通して豊かな心を育むために	バランスのとれた規則正しい食生活の実践	ア 乳幼児期における基本的な食習慣の確立	●			●
		イ 学校における小中学生への食に関する指導のさらなる充実		●		
		ウ 小中学生の食育のための家庭への支援		●		●
		エ 高校における食育の充実		●		
		オ 青年期以降の若い世代を中心とした食育の推進		●	●	●
		カ 妊産婦や乳幼児を持つ親への食育の推進				●
		キ 高齢期における食による健康維持の推進				●
		ク 野菜摂取量を増やす取組の推進				●
		生活習慣病や過度な痩身等の予防	ア 子どもの肥満予防等の推進	●	●	
イ 歯の大切さについての子どもへの啓発活動の推進	●		●			
ウ 思春期からの過度な痩身の予防対策			●			
エ 職場での健康診断等に基づく食生活改善のさらなる推進				●	●	
食の安全に関する信頼の構築	ア 食品表示の適正化の推進				●	
	イ 食の安全に関する情報提供や意見交換		●		●	
	ウ 安全に関する自主管理と情報開示の促進				●	
	エ 食品と医薬品との相互作用等に対する普及啓発				●	
	オ 学校給食等における食物アレルギーへの対応	●	●			
食を楽しむゆとりの確保	ア 給食や弁当を通じた豊かな人間性の育成	●	●			
	イ 家族や友人と食事をとるための環境整備			●	●	
	ウ 高齢者の孤食対策等				●	
体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進	ア 乳幼児期における食とのふれあい機会の確保	●			●	
	イ 少年期から青年期を中心とした食に関する体験等の充実		●		●	
	ウ 幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供				●	
日本の食文化や郷土料理等の理解と継承	ア 子どもに対する食事作法の習得	●	●		●	
	イ 給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進	●	●	●	●	
	ウ 日本型食生活の推進、郷土料理等地域の食文化の継承				●	
食生活における環境への配慮の徹底	ア 子どもに対する環境学習の推進		●			
	イ 環境に配慮した食料品等の購入やリサイクル等の実践				●	
	ウ 環境に配慮した食生活の実践				●	
農林水産業への理解と地産地消の一層の推進	ア 農林水産業への関心と理解を深める取組の推進		●		●	
	イ 子どもに対する地産地消の理解と利用の促進		●			
	ウ 青年期以降における地産地消の実践		●	●	●	
	エ 直売所における生産者と消費者の交流				●	
農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底	ア 農林水産業における環境への配慮とバイオマスの利活用				●	
	イ 食品関連事業者における食品廃棄物等の削減				●	
	ウ フードバンク活動の普及啓発				●	
食育を支える取組	食育にかかる人材の育成と活動の充実	ア 保育・教育機関における推進体制の充実	●	●		
		イ 社会人を対象とした推進体制の充実			●	●
		ウ 愛知県食育推進ボランティアの育成と活動の充実				●
		エ 食育に係る多様な人材の育成と活動の促進				●
	オ 食育推進資料の作成や調査の実施				●	
	関係者の役割分担とネットワークの充実	ア 活動主体同士の情報共有と連携の強化		●		●
イ 既存のネットワークを活用した関係者間の情報共有					●	
いいともあいち運動の推進	ウ 食育に関する情報発信の充実				●	
	ア 運動の定着促進				●	
	イ 協働活動の充実				●	
		ウ 県産農林水産物の利用拡大			●	

4 これまでの取組の評価と今後の展開

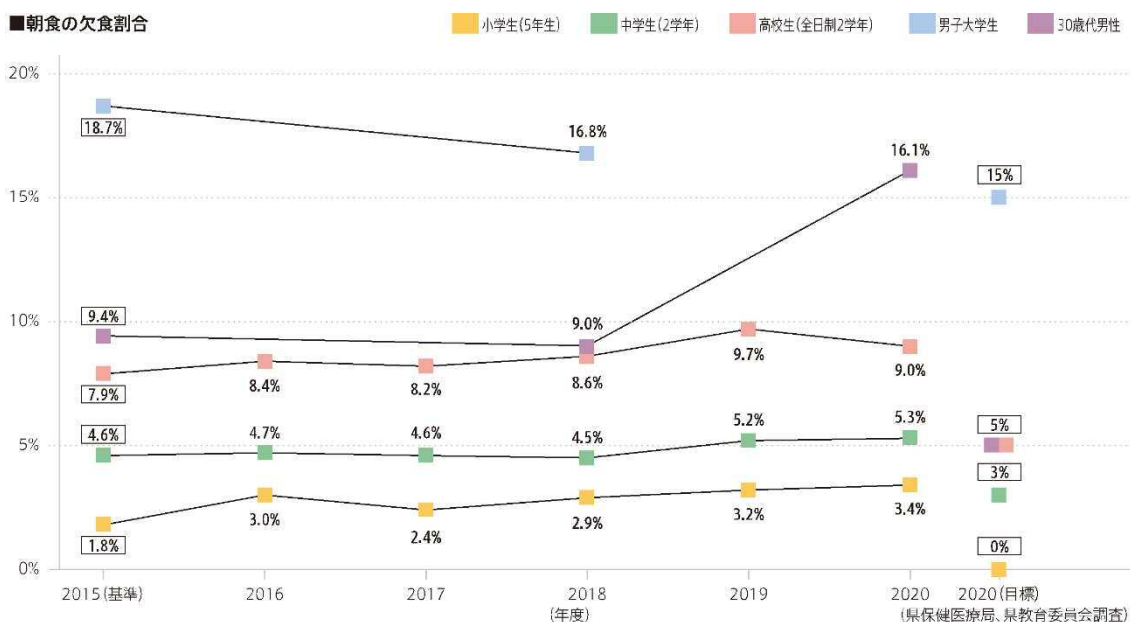
1-1 食に関わる「体」の視点

(1) 目標に対する評価

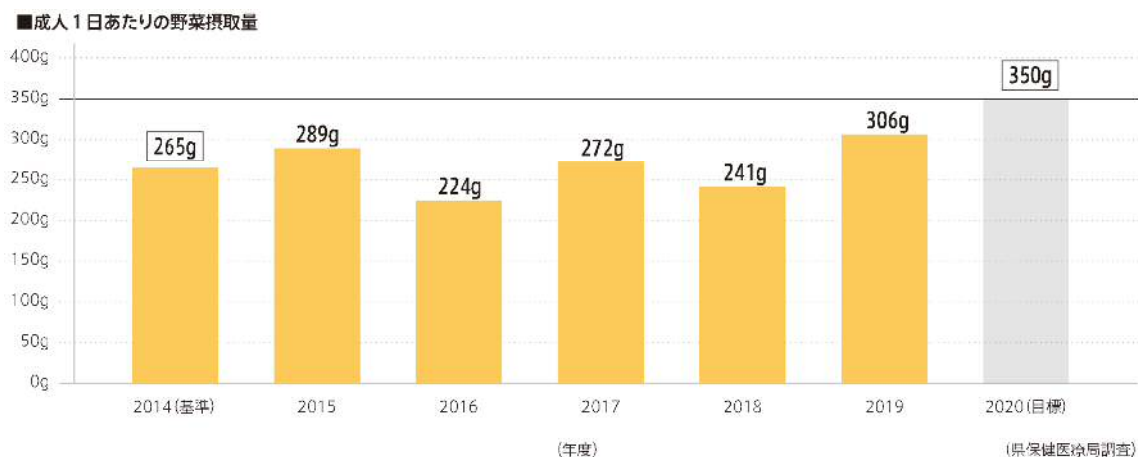
○ 食生活や栄養バランスの乱れ

バランスのとれた規則正しい食生活を実践するため、「早寝早起き朝ごはん」運動を展開して啓発をしていますが、基準年から5年間で、小学生、中学生、高校生の朝食の欠食割合は増加しており、今後も朝食の重要性について啓発していく必要があります。

大学生等を中心とした若い世代に対する啓発や食に関する講演会、職場の給食施設への巡回による啓発等を行っていますが、男子大学生については改善傾向にはあるものの、欠食割合は依然として高い状況にあります。また、30歳代の男性については、増加しており、更なる啓発が必要です。



野菜は各種ビタミンやミネラルを含み、健康づくりに大切な食品であることから、野菜摂取量の向上について啓発を行ってきた結果、愛知県の野菜摂取量は、目標値より下回っているものの、改善傾向が見られます。



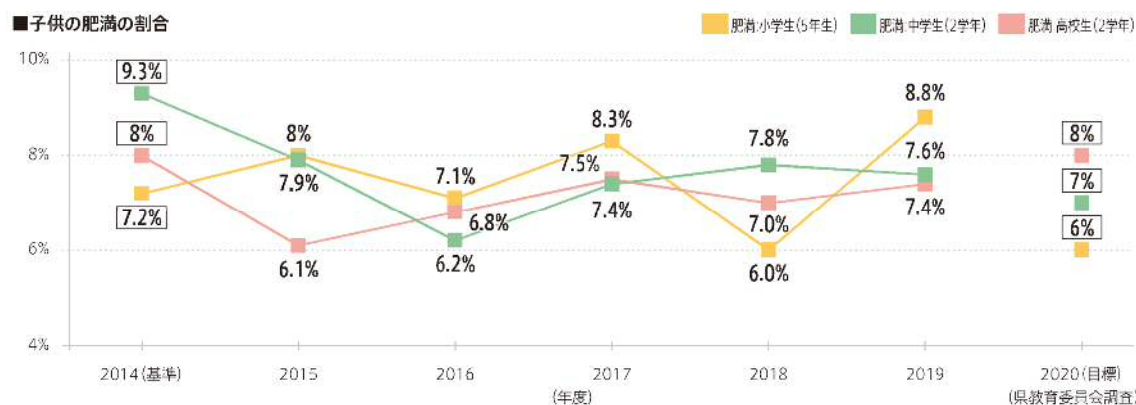
成長期である小中学生がバランスのよい食生活を送るために、朝食に野菜を食べるよう、児童生徒や保護者に対して啓発を行っていますが、時間がない、朝食が用意されていない等の理由で、朝食での野菜摂取は進んでいないため、今後も継続して啓発が必要です。



○ 肥満や過度な瘦身の割合

学校での健康診断等の結果を踏まえて、養護教諭が担任や栄養教諭と連携し、肥満の予防、改善等の指導を行っています。

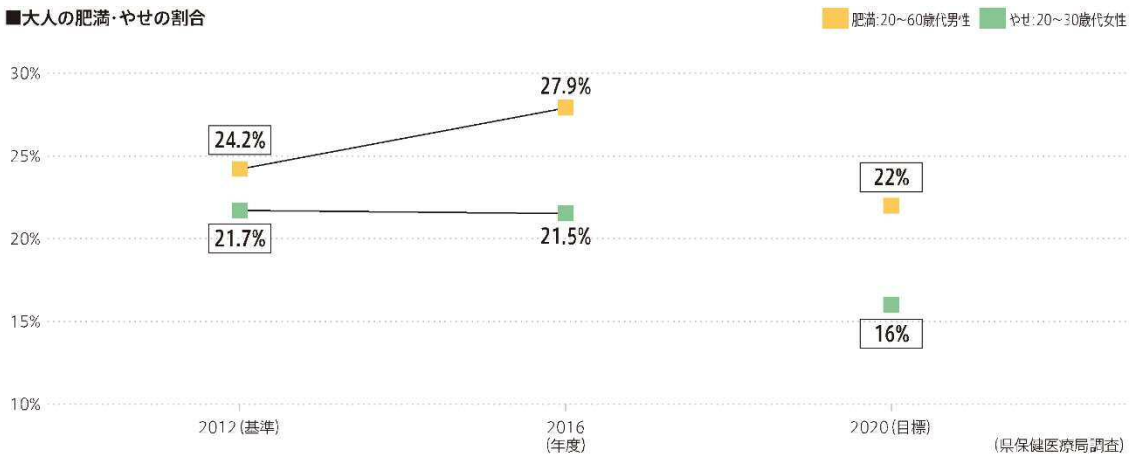
子どもの肥満の割合については、年度により変動が大きく、改善傾向であるかはっきりしないため、今後も継続して指導を行う必要があります。



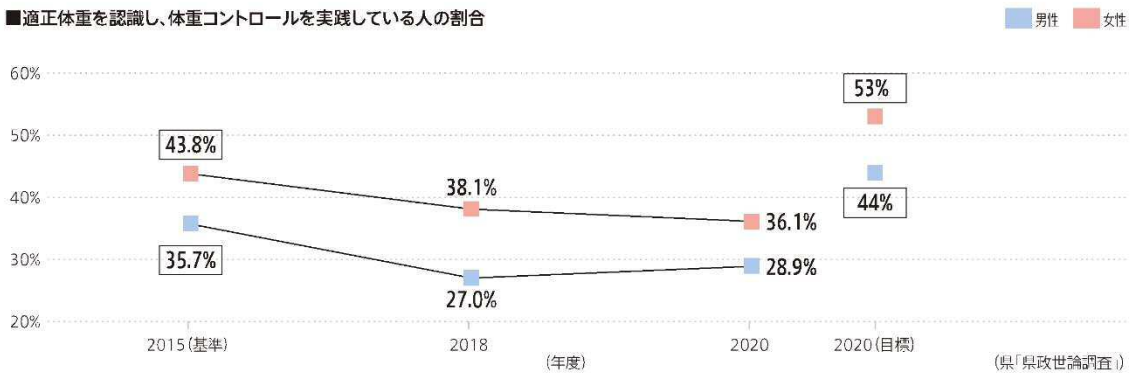
生活習慣病の予防のため、若年期からの肥満予防の啓発を行っていますが、20～60歳男性の肥満の割合については、2016年度は約4人に1人が肥満であり、生活習慣病の発症が懸念されています。また、女性の過度な痩身は、低出生体重児を出産する割合が高くなったり、将来、骨粗しょう症になりやすくなるなどの危険があるため、過度な痩身のリスクについての正しい知識の普及啓発を行っていますが、20～30歳女性のやせの割合については、2016年度は、約5人に1人がやせているという結果です。

自分の適正体重を認識し、体重のコントロールを実践している人の割合は、男女ともに減少しており、今後も啓発が必要です。

■大人の肥満・やせの割合



■適正体重を認識し、体重コントロールを実践している人の割合

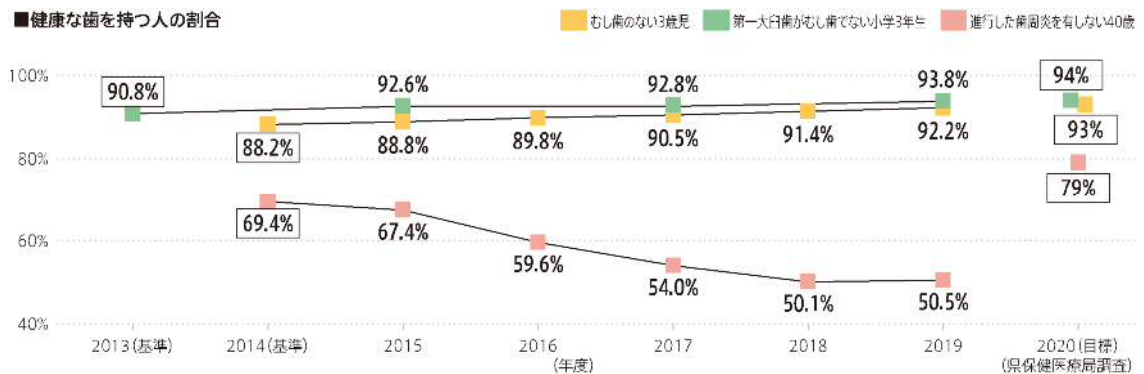


○ 健康な歯を持つ人の割合

食を通じて健康寿命を延伸するためには、乳幼児期から高齢期に至るまで、歯や口の健康が重要であることから、関係者が園児・児童生徒や保護者に対し、歯の大切さについて等の啓発を行ってきました。

その結果、むし歯のない3歳児及び第一大臼歯がむし歯でない小学3年生の割合については、基準年と比べて改善しており、幼児及び学童のむし歯は県内全体では減少を示しています。また、生涯、自分の歯でおいしく食事ができるよう「8020運動」の啓発も行っていますが、進行した歯周炎を有しない40歳の割合については、目標値を下回っており、今後も啓発が必要です。

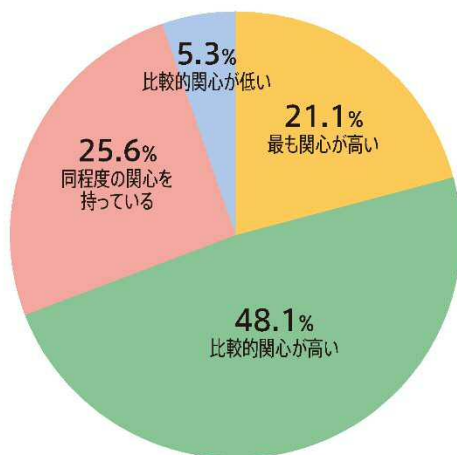
■健康な歯を持つ人の割合



○ 食の安全に対する不安

食品表示の適正化の推進や食の安全・安心に関する知識と理解が深められるよう、情報の提供を行っています。食の安全に対する取組への関心について尋ねたところ、交通安全・防災・環境の安全等に関する分野と比較して、「最も関心が高い」と「比較的関心が高い」を合わせると約7割となり、食の安全に対する関心の高さがうかがえました。

■食の安全に対する取組への関心度
(交通安全・防災・環境の安全等に関する分野と比較して)



(2020年度 県消費生活モニター アンケート調査)

(2) 今後の展開

○ 健康に配慮したバランスの良い食事を選択できる食環境づくり

将来、健康に配慮した食生活を実践できるようにするため、子どもの頃から栄養バランスの取れた規則正しい食習慣を身につける必要があります。そのため、自立した生活を始めるまでに、食の知識や調理技術を身につける取組を行います。

また、子どもの食習慣は親の影響を深く受けることから、親世代に向けた啓発にも取り組みます。若い世代においては、食生活の乱れが課題であることから、ライフスタイルに則した食生活の改善に向けた取組を進めるため、大学や職場等への啓発を行います。

高齢者においては、例えば、自ら調理をしたり、調理食品を活用したりするなど、自分の食事は自分で整えることができるように啓発を行います。

○ 野菜摂取量を増やす取組の推進

野菜には、健康を維持し、体調を整えるために必要なビタミンやミネラル、食物繊維やポリフェノール（苦みや色素などの成分）などの機能性成分が豊富に含まれます。毎日しっかりとることが、健康づくりに大切であるため、野菜摂取量を増やす取組を進めていくことが必要です。

一日の野菜摂取量だけを意識するのではなく、毎日の食生活の中でバランス良く野菜を食べる機会を持つよう啓発等を行います。

○ 適正体重の維持を心がけた食生活の推進

適正体重の維持に心がけた食生活を実践することは、生活習慣病の予防や改善につながります。適正体重について、正しい知識や情報を得てそれらを実践できるよう、子どもの頃から啓発を行います。

○ 健康な歯と口を維持するための習慣の定着

生涯おいしく豊かな食生活を送るためには、何でも噛める歯と口を維持することが重要です。歯みがきや定期的に歯科検診を受けるなどの適切な習慣を身に付け、むし歯や歯周病を予防するとともに、乳児期からの口腔機能の健全な育成をはじめ、高齢期の咀嚼、嚥下機能の低下を防止できるよう、ライフステージに応じて啓発・実践する取組を進めます。

○ 食の安全・安心に関する信頼の構築

研修会の実施等により、引き続き、食品表示を始めとした食の安全・安心に関する正しい知識の普及を図ります。

また、学校給食での食物アレルギーについては、基本方針に基づき、今後も安全性を最優先した対応を進めます。

1-2 食に関わる「心」の視点

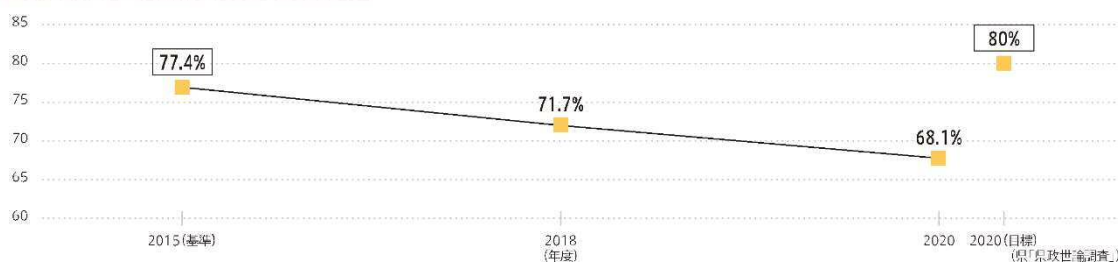


(1) 目標に対する評価

○ 食を楽しむゆとりの確保

家族や友人と食事をすることは、食事マナーや食に関する正しい知識を身につける機会となるほか、楽しい時間は、心の安定につながります。毎月19日を「おうちでごはんの日」とし、街頭活動などで啓発等を行ってきましたが、家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合については減少の傾向にあり、企業・団体等と連携するなどにより、さらなる啓発が必要です。

■家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合



○ 体験や交流を通じた食の理解促進

農林漁業に関する体験活動は、農林水産物の生産現場への関心や理解を深め、毎日の食生活が自然の恩恵の上に成り立っていることや食に関わる人々の様々な活動に支えられていることを理解するために重要であり、県や多くの団体が、体験や見学等の取組を進めてきました。

農林漁業体験学習については、体験活動の授業時間数の減少等の状況の中、各学校の工夫やPTA、地域などの協力により多くの小学校で実施されています。

農林漁業体験学習以外にも、市町村・農協等による農業塾や農林漁業体験イベントが実施されており、農林漁業体験には毎年8万人程度が参加するなど、継続的に行われています。

■農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合



■農林漁業を体験する主な活動参加者数

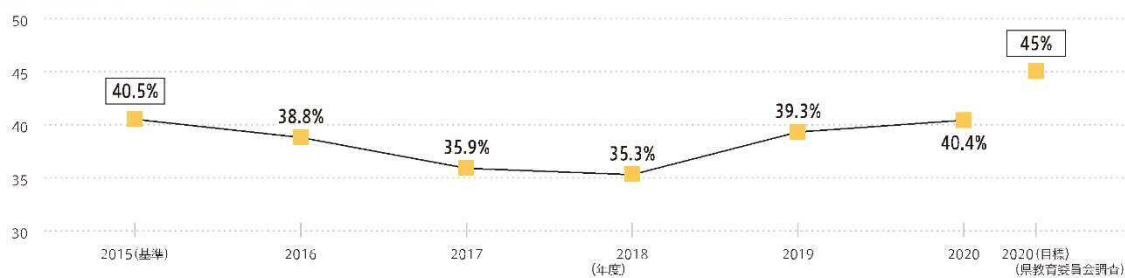


○ 食文化や食事作法等の理解と継承

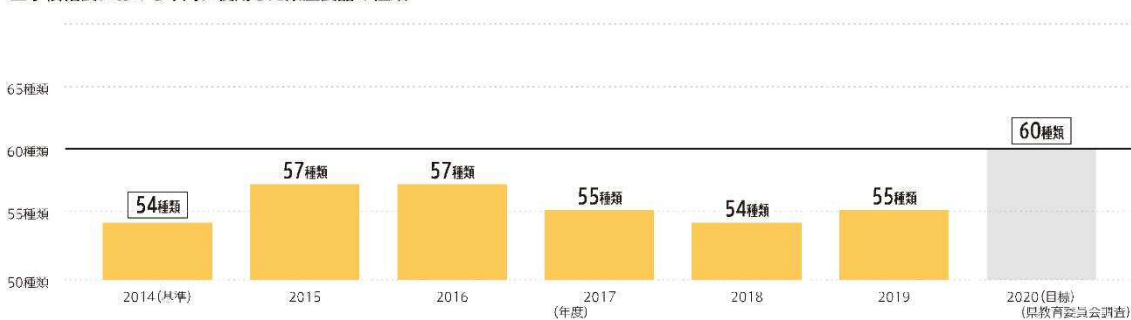
学校給食における県産農林水産物の活用は、地域でとれる食材やその生産などに関心を深め、地域の食べ物を大切に作る心を育てるほか、郷土料理を献立に取り入れることで、地域に伝わる食文化に触れる機会となります。また、給食の時間に、食器や箸の持ち方、食事の姿勢などを繰り返し指導することで、基本的な食事作法等を学び、身に付けることができます。

全食品数に占める県産食品数の割合、年間に使用した県産食品の種類は、使用量が確保できない、価格が高い、価格が安定しない等の理由もあり、目標の達成は難しい状況ではありますが、今後も継続した県産農林水産物の活用の推進が必要です。

■学校給食における全食品数に占める県産食品数の割合



■学校給食における年間に使用した県産食品の種類



(2) 今後の展開

○ 食を楽しむゆとりの確保

家族や友人と一緒に食を楽しむ時間を持つことは、食事作法や食に関する感謝の心の体得、食文化の継承等に役立ち、幼少期には豊かな心を育むことにつながります。

しかしながら、共働き世帯の増加や、個々のライフスタイルの多様化によって、食を楽しむゆとりを確保することが難しくなっています。

今後も、ワーク・ライフ・バランスを推進するとともに、ゆっくり味わい食を楽しむ時間を持つこと、会話を楽しむこと等の大切さを啓発します。

○ 「共食」の大切さの啓発

近年、一人で食事をする「孤食」の他、複数で食卓を囲んでいても食べる物が違う「個食」、必要以上に食事量を制限する「小食」、同じ物ばかり食べる「固食」、濃い味付けの物ばかり好む「濃食」、パンや麺類など粉から作られた物ばかり食べる「粉食」などが問題となっています。家庭等の他、子ども食堂、高齢者対象サロンなどで、誰かと食事することは、心が豊かになるだけでなく、栄養バランスや健康に配慮した食事を摂取する機会となることが期待できます。

このような現状から、地域での共食の場づくりを促進するとともに、「おうちでごはんの日」等を活用し、家族や友人と食事をする「共食」の大切さを啓発していきます。

○ 郷土料理等の地域の食文化の継承

日本の伝統的な食文化である和食は、栄養バランスに優れ健康的な食事スタイルですが、食の多様化や継承する機会の減少等により、失われつつあります。

郷土料理等の地域の食文化を次世代に継承するため、地域の食文化について学ぶ機会の充実を図るとともに、その継承について啓発します。

また、食材の変化や時代に合った味付け等、新しい郷土料理の創出についても理解を進めます。

○ 農林漁業体験を通して食に対する感謝の心を育む

農林漁業体験は、いのちの大切さや自然の恩恵、食にかかわる人々の活動などへの理解を深めるとともに、食に対する感謝の心を育むことにもつながるため、農林漁業体験の機会の確保と、その指導者の育成を図ります。

○ 新しい生活様式に対応した食育の推進

感染症の拡大防止のため、家で食事をする機会が増えたことにより、調理の負担増加や食の偏りなどが問題となっています。

調理食品や中食をうまく活用するなどにより栄養バランスに配慮したり、家庭で子どもと一緒に調理をすることで食について考える機会とするなど、発想の転換で、新しい生活様式に対応した食育を推進します。

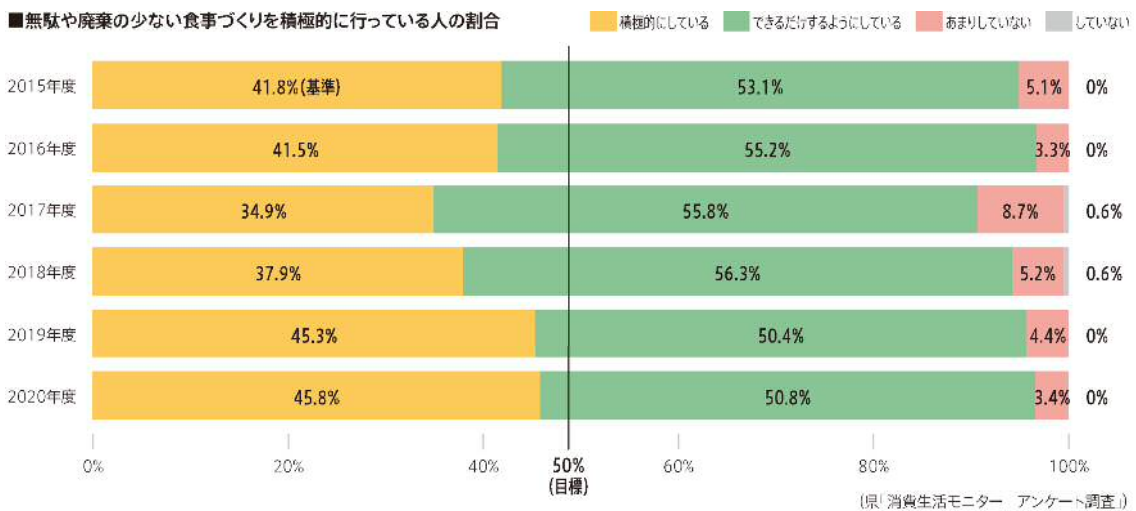
1-3 食に関わる「環境」の視点



(1) 目標に対する評価

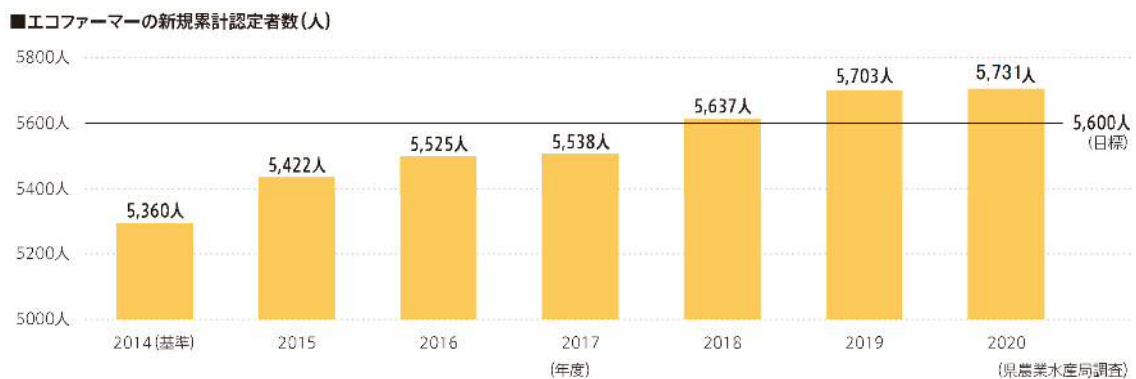
○ 無駄や廃棄の少ない食事づくり

2017年度に啓発冊子を作成して、研修での講義やイベントなどで配布し、「無駄な買い物をしない」、「食材を無駄なく使い切る」などの家庭でできる食品ロス削減術の啓発等を行っており、無駄や廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている人の割合は、約46%と改善が見られています。目標には達していませんが、5割以上の県民が「できるだけするようにしている」と回答しており、関心の高さがうかがえます。



○ 農林水産業や食品関連産業における環境への配慮

環境保全に加え、農産物の安全や品質向上等にも有効な GAP 手法（農業生産工程管理手法）に取り組む生産者・産地への支援や、化学肥料や化学合成農薬をできるだけ減らし、環境に優しい農業に取り組む「エコファーマー」の認定者を増やすなど、環境への負荷を軽減する取組を進めました。その結果、エコファーマーの新規累計認定者数が、目標とする5,600人を超えるなど、環境に配慮した農業に取り組む生産者が増えています。



(2) 今後の展開

○ 食を通じた環境への配慮

毎日の食生活における環境への影響に関する理解を深め、環境に配慮した食生活の実践に取り組む人づくりを進めるため、子どもに対する環境学習を推進するとともに、環境に配慮した食料品等の購入、エシカル消費の実践等を啓発します。

また、食品ロス削減への関心が高まる中、無駄や廃棄の少ない食事づくりなど、日々の生活の中で、環境に配慮することの必要性について啓発します。

○ 地産地消の推進と農林水産業の役割の理解促進

地域で生産された農林水産物を地域で消費することは、輸送において使用される石油資源やエネルギーの軽減につながります。

また、農林水産業は、生物多様性の保全や、水源のかん養など環境を保全する機能を有しています。そのため、生産者と消費者の相互理解を促す地産地消の取組や農林水産業の役割への理解を促進する取組を進め、県産農林水産物等を優先して購入したいと考える県民の増加につなげていきます。

さらに、給食での県産食品の活用等を通して、子どもへの地産地消の理解を促進します。

○ 農林水産業や食品関連産業における環境への配慮の徹底

農林水産業や食品関連産業においては、今後も環境への配慮を徹底することにより、食べ物の生産・提供から生じる環境への負荷を軽減します。

2 食育を「支える」視点



(1) 目標に対する評価

○ 食育推進ボランティアなどの活動

県民一人一人が食育に関心を持つだけでなく、自ら実践するためには、地域で食育活動に取り組む方々から知識や技術を学ぶことが効果的です。

県では、地域で食を学ぶ機会が拡大するよう、こうした食育に携わる方々に対し「愛知県食育推進ボランティア」として登録いただき、その活動を支援しています。

また、食育推進ボランティアの交流や研修の場を提供しています。食育推進ボランティアから食育を学んだ人数については、目標である年間10万人を超えています。

(2020年:約1.3万人 新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少)

■食育推進ボランティア から食育を学んだ人数



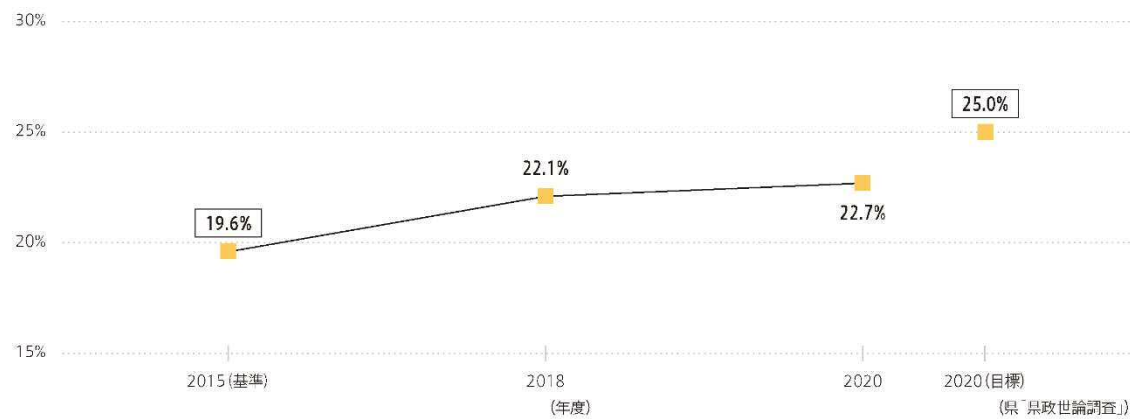
○ いいともあいち運動の推進

「いいともあいち運動」は、県内の消費者と生産者が相互理解や交流を深めたり、地産地消を進めることで、県民みんなで県の農林水産業を支えていく取組です。

この運動では、生産者団体から流通関係者、消費者団体等に至る幅広いネットワークを構築しています。また、県産農林水産物の販売や利用に力を入れる「推進店」や、運動の趣旨に賛同し応援の輪を広める「サポーター」も加わり、さまざまな立場から運動の趣旨に沿った取組が行われています。

これまで、運動のシンボルマーク（あいまる）の活用促進やキャンペーンの開催、コンビニエンスストアやスーパーマーケット等との連携による新商品開発・販売、農林水産フェアの開催などを通じたPR活動を行ってきた結果、「いいともあいち運動」を知っている人の割合は、目標には達していませんが、徐々に高まっています。

■「いいともあいち運動」を知っている人の割合



(2) 今後の展開

○ 食育を担う多様な人材と活動の充実

食育は、ライフステージや生活場面に合わせて切れ目なく行うことが必要です。

そのため、食育推進ボランティアや食生活改善推進員を始めとした地域で食育推進活動を行う人材の育成を図ります。

また、これらの多様な人材による活動を通して、食育を受ける機会が増えるよう、活動の充実に向けて必要な支援を行っていきます。

○ 多様な取組主体同士のネットワーク強化

活動の場があれば活動したいと考えている食育推進ボランティアも多い一方、活動の場が頭打ちとなっている現状もあります。

今後は、食育推進ボランティア同士の連携や、ボランティアと学校との連携による取組等により、多様な取組主体同士のネットワークを強化し、地域での食育を推進していく必要があります。

また、ニーズに合った食育活動等を実施するためには、希望する県民からの要望に対するコーディネート役を充実させることが必要です。

○ いいともあいち運動の推進と充実

いいともあいち運動の取組については、情報を発信する者とその情報を必要としている者とのマッチングを支援するなど、生産、流通、消費の各者間における情報の共有化を図り、相互のつながりを一層充実させていく必要があります。

また、企業等が運動のシンボルマークを自社商品に刷り込んで販売する事例のように、民間が自発的に運動を盛り上げていく機運を高めていく必要があります。

○ 食育の推進による SDGs 達成への貢献

食育の推進により、SDGs の 17 の持続可能な目標の全てに貢献ができると考えます。食育を推進する取組主体が、ネットワーク形成や働きかけ、情報共有等を行い、各課題について連携して取り組むことで、SDGs 達成へ貢献していきます。

5 食育推進計画における食育の目標と達成状況

1-1 食を通じて健康な体をつくるための目標

項 目		基準年	現状値	状況	目標(2020)
○朝食の欠食割合	小学生(5学年)	1.8%(2015)	3.4%(2020)	△	0%
	中学生(2学年)	4.6%(2015)	5.3%(2020)	△	3%以下
	高校生(全日制2学年)	7.9%(2015)	9.0%(2020)	△	5%以下
	男子大学生	18.7%(2015)	16.8%(2018)	○	15%以下
	30歳代男性	9.4%(2015)	16.1%(2020)	△	5%以下
○朝食に野菜を食べている小中学生の割合	小学生(5学年)	64.1%(2015)	58.6%(2020)	△	80%以上
	中学生(2学年)	51.7%(2015)	51.0%(2020)	△	80%以上
○野菜の摂取量	成人1日あたりの摂取量	265g(2014)	306g(2019)	○	350g以上
○肥満・やせの割合	肥満:小学生(5学年)	7.2%(2014)	8.8%(2019)	△	6%以下
	肥満:中学生(2学年)	9.3%(2014)	7.6%(2019)	○	7%以下
	肥満:高校生(2学年)	8.0%(2014)	7.4%(2019)	◎	8%以下
	肥満:20~60歳代男性	24.2%(2012)	27.9%(2016)	△	22%以下
	やせ:20~30歳代女性	21.7%(2012)	21.5%(2016)	○	16%以下
○自分の適正体重を認識し、体重コントロールを実践している人の割合	男性	35.7%(2015)	28.9%(2020)	△	44%以上
	女性	43.8%(2015)	36.1%(2020)	△	53%以上
○健康な歯を持つ人の割合	むし歯のない3歳児	88.2%(2014)	92.2%(2019)	○	93%以上
	第一大臼歯がむし歯でない小学3年生	90.8%(2013)	93.8%(2019)	○	94%以上
	進行した歯周炎を有しない40歳	69.4%(2014)	50.5%(2019)	△	79%以上

1-2 食を通じて豊かな心を育むための目標

項 目		基準年	現状値	状況	目標(2020)
○家族や友人と一緒に楽しく食事をする人の割合 (1日最低1食、家族や友人と一緒に楽しく30分以上かけて食事をする人の割合)		77.4%(2015)	68.1%(2020)	△	80%以上
○農林水産業に親しむ県民の割合 農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合(名古屋市を除く) 農林漁業を体験する主な活動参加者数		68.8%(2015)	68.5%(2020)	△	80%以上
		7.7万人(2014)	8.0万人(2019)	○	8.4万人以上
○学校給食における地域の産物の活用 全食品数に占める県産食品数の割合 年間に使用した県産食品の種類		40.5%(2015)	40.4%(2020)	△	45%以上
		54種類(2014)	55種類(2019)	○	60種類以上

1-3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための目標

項 目		基準年	現状値	状況	目標(2020)
○無駄や廃棄の少ない食づくりを積極的に行っている人の割合		41.8%(2015)	45.8%(2020)	○	50%以上
○エコファーマーの新規累計認定者数		5,360人(2014)	5,731人(2020)	◎	5,600人以上

2 食育を支えるための目標

項 目		基準年	現状値	状況	目標(2020)
○食育推進ボランティアから食育を学んだ人数		9.1万人(2014)	1.3万人(2020)	△	10万人/年間
○「いいともあいち運動」を知っている人の割合		19.6%(2015)	22.7%(2020)	○	25%以上

(状況・・・ ◎:達成 ○:改善 △:改善見られず 2021.5.31の状況 ◎:2 ○:10 △:15)

II 「あいち食育いきいきプラン2025」について

「あいち食育いきいきプラン2020」では、「体」、「心」、「環境」に着目した食育の取組目標を設定し、各取組主体と連携して、健康で活力ある社会の実現のため食育の推進・実践を図ってきました。

プランの最終年度を迎え、これまでの取組と今後の展開、次期プランである「あいち食育いきいきプラン2025」について紹介します。

1 目指す姿と取組の方向

2021年4月から、「あいち食育いきいきプラン2020」に替わる次期プランとして、「あいち食育いきいきプラン2025」がスタートしました。「あいち食育いきいきプラン2025」では、これまでの取組を継承するとともに、多様な主体同士の連携や新しい生活様式の実践、SDGs達成への貢献などを踏まえ、取組を「SHIN化」（新化・進化・深化・伸化）させ、食育の実践力を高めていきます。

「新化」・・・時代に合わせた変化	「S」・・・Sustainable(持続可能な)
「進化」・・・多様な発展	「H」・・・Healthy(健康な)
「深化」・・・質の向上	「I」・・・Interesting(興味深い)
「伸化」・・・横展開のつながり	「N」・・・Network(連携)



2 取組の展開方法

あらゆる世代の県民が健全な食生活を送り、心身ともに健康で豊かに暮らすためには、生涯を通じた間断のない食育が重要です。このため、乳幼児から成人、高齢者に至るまで、生涯にわたってそのライフステージと生活場面に応じた食育を進めます。



Ⅲ 特集：第5回食育活動表彰について

全国各地で農林漁業、食品製造・販売等その他の事業活動、教育活動又はボランティア活動を通じて、食育の推進に取り組む者の功績を称えるとともに、その取組の内容を広く周知し、食育を推進する優れた取組が全国に展開していくことを目的として、2016年以降、毎年農林水産省が表彰しており、その年の食育推進全国大会において、表彰式や事例発表会が行われています。

2021年に発表があった第5回表彰では、「東海市健康づくり食生活改善協議会」が消費・安全局長賞を受賞しましたので、活動内容について紹介します。

食育活動表彰の詳細については、農林水産省のホームページを参考にしてください。

(<https://www.maff.go.jp/j/syokuiku/hyousyo/index.html>)

ボランティア部門
(食生活改善推進員の部)

消費・安全局長賞

東海市健康づくり食生活改善協議会 (東海市)

とまと記念館で「健康メニュー」を提供
地域に根ざした食育活動の推進

◆活動内容

東海市健康づくり食生活改善協議会は、1990年に設立され、食を通じた市民の健康づくりの支援を目的に、イベントや地域での料理教室などを開催し、普及・啓発活動を行っています。

設立当初は、東海市で生産されるふきや玉ねぎのレシピ開発、箱寿司、おこしものなど、地域の食文化の継承等を中心に食育活動を推進していましたが、2012年の国民健康・栄養調査で愛知県の野菜摂取量が最下位だったことや、東海市が「カゴメ株式会社」発祥の地であるという歴史的背景をきっかけに、トマトが健康に効果的な野菜であることを踏まえ、「東海市トマトで健康づくり条例」を制定しました。このため、協議会でもトマトのメニュー開発に力を入れ、野菜摂取量向上に取り組んでいます。

2014年度からは、食の活動拠点と位置づけている「とまと記念館」において、「トマトの健康プロジェクト」の一環として、トマトを使った健康ランチを市民に提供しています。とまと記念館の料理は、東海市認定健康メニューの基準を満たしているものを提供しており、全てトマトジュースの乾杯付きとなっています。

また、この他の活動として、小学生と簡単おやつ作り、高校生への朝ご飯教室、社会人向けには、時短メニューを紹介する健康料理教室を開催するなど、ライフステージに応じた食育推進を地域で実施しており、これらの幅広い活動が高く評価され、今回の受賞となりました。



レストランでの接客の様子



高校生への朝ご飯教室の様子

IV 2020年度の主な取組の状況



食を通じて健康な体をつくるために

乳幼児期から高齢期にいたるまで、ライフステージに応じた「バランスのとれた規則正しい食生活の実践」、子供の肥満予防や思春期からの過度な痩身の予防、職場等での健康指導など「生活習慣病や過度な痩身等の予防」、及び「食の安全に関する信頼の構築」に取り組みました。

1 バランスのとれた規則正しい食生活の実践

離乳食教室 (YouTube)

東郷町

●実施時期：通年

●対象者：離乳食準備期から完了期までの子を持つ保護者

●内容

子どもが心身ともに健やかに育つように、母子を取り巻く環境を整え、安心して子育てができるために支援を行い、人の一生の健康への基礎形成に役立つものを目指しました。

離乳初期編「～お話編～離乳食について」、離乳初期編「～調理編～つぶし粥、かぼちゃのペースト、しらすのペースト」、特別編「基本のだしの取り方」計3つの動画を配信しました。

●活動の成果、今後の課題

コロナ禍により離乳食教室の開催を見合わせている中、離乳食作りに不安を持つ保護者に離乳食の知識を伝えることができました。保護者の都合の良いタイミングで視聴することができるため、離乳食教室に参加されなかった保護者へも知識を伝えることができます。

課題としては、離乳食に対して悩みや不安がある保護者が見ているか、解決できたかを把握することが難しいこと、視聴者を増やすための周知方法を検討することです。



〈取組項目：乳幼児期における基本的な食習慣の確立〉

〈取組場面：地域〉

調理員さんや栄養士さんに、給食の話を聞こう

愛知県国公立幼稚園・こども園長会（安城市立安城北部幼稚園）

●実施時期：9月30日、12月14日

●対象者：園児

●内容

子どもたちが、毎日食べている給食を作る調理場の方の話を聞くことで、食べ物への関心を深め、感謝の気持ちをもって食べられるようにしたいという思いから、給食出前講座を依頼しました。また、献立を考えている栄養士の方から話を聞くことで、食材や食べるとどのような栄養になるのかを知り、毎日食べている給食や自分の体について考える機会となるようにしました。

●活動の成果、今後の課題

給食を食べる際に「この唐揚げは鶏肉でできているから、体をつくる「赤」の栄養だね」や、「今日は野菜もお汁も空っぽになったから、調理員さん喜ぶね」など、食材や栄養素を話題にする姿や、作ってくれた人のことを考える発言がありました。今後も子どもたちが食べる喜びを感じたり、楽しく食事をできるように、取り組んでいきたいと思えます。



〈取組項目：保育所等での給食・弁当を活用した食育や地域人材の活用〉

〈取組場面：保幼〉

大型仕掛け紙芝居「コウくんとバランスマン」

愛西市

●実施時期：8月3日、17日、26日、9月23日

●対象者：園児

●内容

園児・児童を対象として作成した大型紙芝居を用い、①朝食を摂る②バランスよく食べる③生活リズム（早寝・早起き・朝ごはん）の大切さを伝えました。同年齢の主人公（コウくん）とヒーロー（バランスマン）が登場し、仕掛けを取り入れ、楽しく学べる様に工夫しました。紙芝居後は、栄養クイズ（赤・黄・緑の3分類の振り分け）を実施しました。

●活動の成果、今後の課題

4か所の保育園に貸し出し、参加数は合計233名でした。今後は活用を継続してもらえるような園へのPRや、保護者も同席する場など、保護者にも食生活の大切さについて伝える機会の確保が課題となっています。

〈取組項目：保育所等での給食・弁当を活用した食育や地域人材の活用〉

〈取組場面：保幼〉

「あいち学校給食絵画コンクール」の作品展示による食育の啓発

愛知県食育消費流通課

●実施時期：6月～9月 ●対象者：県民

●内容

「第15回食育推進全国大会 in あいち」（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）の関連企画として、「あいち学校給食絵画コンクール」を実施し、県内の小学生及び小学部の児童から2,278点の応募があり、その中から、72点の入賞者を決定しました。

大会会場内で展示される予定だった入賞者の作品について、多くの方に作品を見ていただけるよう、県庁地下連絡通路（6月）及び愛知県図書館（7月～9月）に展示しました。他にも、全国学校給食会が刊行する「学校給食」（9月号）にて作品を紹介してもらうなどの周知を行いました。

●活動の成果、今後の課題

応募作品の中には、配膳してくれる上級生や先生、食材を生産する生産者に対する感謝を描いた作品もあり、子供達にとって給食は、楽しい時間であるとともに、周りに感謝をする豊かな心を育む大切な時間であることを、作品を見た人も改めて感じる機会となったと思います。

今後も、学校給食を「生きた教材」として活用し、食育を推進するために関係者との連携を図っていきます。



〈取組項目：学校における小中学生への食に関する指導のさらなる充実〉

〈取組場面：学校〉

西尾市観光協会食部会による食育講座

西尾市

●実施時期：2020年9月16日～2021年1月20日 ●対象者：市内小学生

●内容

西尾市観光協会食部会への委託事業として、市内飲食店等が市内6小学校で食育の出前授業を実施しました。数多くある西尾市の農林水産物を身近に感じてもらい、食や地産地消への関心を高める目的で実施しています。2020年度は、一色産うなぎの話やふれあい、西尾の抹茶・三河一色えびせんべい・西尾で獲れる魚の話、生徒が育てたさつまいもで作った鬼まんじゅうの試食・西尾の抹茶に合う和菓子づくりなどを通じて西尾市の農林水産物について学びました。

●活動の成果、今後の課題

普段聞くことのできないお話を聞くことや、体験できない調理実習ができ、地元の農産物等を理解する良い機会でした。今後は実施校を増やしていけるように、PRしていきたいです。



〈取組項目：学校における小中学生への食に関する指導のさらなる充実〉

〈取組場面：学校〉

給食だよりの発行

長久手市

●実施時期：2020年6月、11月、2021年2月

●対象者：市立小中学生の家庭

●内容

給食づくりの紹介や家庭での食育のきっかけづくりに役立てるため、児童生徒及びその家庭に配布しました。

1学期に一度、学校給食週間等の取組に合わせ、給食だより「ながくての給食」を発行し、学校を通じて家庭に配布、市Webサイトに掲載しました。1学期号は新型コロナウイルス感染症予防を、2学期号は地元応援給食を、3学期号は学校給食週間を特集しました。

●活動の成果、今後の課題

広い誌面に図や写真、グラフを掲載できるので、児童生徒や保護者の目にとまりやすいようです。

朝食、食品ロス、地場産食材、食育など家庭に訴えたいテーマが多いこと、誌面の充実が課題です。



お読みいただきありがとうございます。早いもので、今の学年で通二卒のもあとわずかにになりました。
小学3年生も特設欄に給食を食べることができるようになってきました。
小学3年生にとっては、9年間の小中学校生活で毎日食べていた給食がおしまいになります。卒業後は、給食を食べる機会も少なくなるでしょう。この9年間の振り返り、長久手の学校給食の味を忘れないように、味わって食べてもらえたら幸いです。

長久手市立長久手給食センター

〈取組項目：小中学生の食育のための家庭への支援〉

〈取組場面：学校〉

「朝ごはんありがとう」普及啓発チラシの作成・配布

したら保健福祉センター・いきいきしたら計画 こども部会

●実施時期：10月

●対象者：保育園児～小中学生

●内容

朝食の100%摂取を目指し、朝ごはんの大切さを理解してもらうことを目的に、チラシを作成し普及・啓発活動を行いました。

3つの食品群をイメージしたキャラクター「したら朝ごはんマン」を通して、バランスのよい朝ごはんを理解する話と忙しい朝でもバランスのよい朝ごはんを用意するコツを掲載し、保育園児・小中学生の保護者と町内各戸へ配布しました。

●活動の成果、今後の課題

子供たちの興味を引くチラシを作り、分かりやすく、楽しみながら食事バランスと朝ごはんの知識を伝えることができました。今後は、チラシを配布したことによりどのような効果があったのかを検討し、評価していくことが課題です。

〈取組項目：小中学生の食育のための家庭への支援〉

〈取組場面：地域〉

食育講演会

みよし市

●実施時期：2021年1月23日

●対象者：市民

●内容

食育という言葉や食育の大切さを知ってもらうために、名古屋グランパスの栄養アドバイザーを講師として、「Jリーガーから学ぶ元気ごはん」をテーマに食育講演会を開催しました。全世代を対象に、コロナ禍でも負けない元気な体を作るための食事について、名古屋グランパスエイトの選手の実際の食事を事例にあげながら、クイズや選手からのビデオレター等を交え、子どもから大人まで楽しく食について学べる講演会を実施しました。



●活動の成果、今後の課題

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年より定員を減らして実施、当日は13名が参加しました。参加者はメモを取ったりクイズに参加したり、楽しそうに受講していました。今後も第3次みよし市食育推進計画をもとにテーマを選定し、より多くの人に食への関心を高めてもらえるような講演会を継続して行っていきます。

〈取組項目：青年期以降の若い世代を中心とする食育の推進〉

〈取組場面：地域〉

マタニティ教室 食育編

東浦町

●実施時期：2020年8月、11月、2021年2月

●対象者：妊婦

●内容

妊婦を対象に、健やかに妊娠期間を過ごし出産を迎えるために、妊娠中の食生活についての講義を実施しています。

講義については、妊婦自身が自分の食生活を振り返る機会になるような内容としています。

●活動の成果、今後の課題

教室中に不安に思っていることや疑問点を管理栄養士に質問することで、参加者同士で情報を共有することができ、交流も生まれています。

〈取組項目：妊産婦や乳幼児を持つ親への食育の推進〉

〈取組場面：地域〉

もうすぐ3歳！知っ得教室

豊川市保健センター

●実施時期：通年

●対象者：2歳11ヶ月の子とその保護者

●内容

健診結果や食育アンケートから若い世代の食生活の問題が明らかになっており、食習慣改善の必要がありました。啓発が難しい現状がありました。一方で、幼児食に悩む若い母親が多かったため、母親のニーズに合わせてながら子どもの規則正しい生活習慣、食習慣を伝えつつ、家族全体の食事を見直せる教室（手ばかりを使った栄養講話、ミニ体験）を開催しました。

●活動の成果、今後の課題

参加者各自が食生活を振り返ることができており、家族の食習慣改善について前向きな感想を多く頂きました。年々、母親の就業率が上がり、参加者の数が伸び悩んでいます。参加しやすい教室の開催方法の検討が必要となっています。

〈取組項目：妊産婦や乳幼児を持つ親への食育の推進〉

〈取組場面：地域〉

フレイルを予防する生活

長久手市

●実施時期：9月～

●対象者：高齢者

●内容

健康づくり計画第2次に基づいて事業を実施しています。計画の「健康管理」の領域で、自ら健康管理する人を増やすことを目標としており、高齢期における健康維持の生活（食を含む）を目的とし開催した。

●活動の成果、今後の課題

コロナの関係で調理実習は実施せず、Webサイトでフレイル予防とレシピの公開を行いました。今後もフレイルを予防する生活ができるよう取り組んでいきます。



〈取組項目：高齢期における食による健康維持の推進〉

〈取組場面：地域〉

野菜を食べようプロジェクト「野菜たっぷり！！ヘルシーメニュー」

知多市

●実施時期：通年 ●対象者：市民

●内容

市内飲食店にご協力いただき、野菜量 140g、エネルギー500～700kcal、食塩摂取量 3.0g の認定基準にあうメニューを「野菜たっぷり！！ヘルシーメニュー」として認定しています。外食でもしっかり野菜がとれる環境をつくり、市民の健康に対する意識の向上と野菜摂取量の増加を目的として実施しています。

今年度は新規店舗の募集は行わず、継続店舗のフォローアップを実施しました。また、テイクアウトが可能な店舗については、知多市商工会が発行する「大福帳」にその旨を記載し、市民への周知を図りました。

●活動の成果、今後の課題

10月に喫食者アンケートを実施した結果、1か月間で268名の利用があり（うちアンケートを回収できたのは179名）、9割の方が「普段の食事の参考になった」「また食べたいと思う」と回答しました。



〈取組項目：野菜摂取量を増やす取組の推進〉

〈取組場面：地域〉

「野菜の日」に向けた取組

豊田市

●実施時期：8月 ●対象者：市民、小学生と保護者

●内容

健康づくり豊田21計画(第三次)の重点事業の一つである「ベジタブル&トレーニング とよた プラス10」の取組推進のため、8月31日「野菜の日」に向けた啓発イベントや店舗での啓発チラシの設置を実施しました。

・野菜の日イベント：キューピー株式会社 挙母工場 共同開催
参加者 15組 33人

・店舗での啓発チラシ設置：店舗数 23 店舗、チラシ配布数 2,270 枚
※実施店舗：株式会社 山信商店、あいち豊田農業協同組合、トヨタ生活協同組合、えぷろんフーズ株式会社

●活動の成果、今後の課題

イベントでは体験が多く、親子で楽しく学ぶ機会となり、普段の食事での野菜摂取に対する「プラス10」への意識に繋げることができました。

店舗での啓発チラシの設置では、チラシの設置のみの依頼であったため、利用者に気付かれにくかったため、今後継続していく場合、のぼり旗等の媒体を用意し充実を図っていきたいと考えています。



〈取組項目：野菜摂取量を増やす取組の推進〉

〈取組場面：地域〉

2 生活習慣病や過度な痩身等の予防

第 10 回もっと噛んで歯ッピーレシピコンテスト

一般社団法人愛知県歯科医師会

●実施時期：募集期間 5 月 7 日～7 月 31 日 ●対象者：県内在住または在勤、在学の方

●内容

生涯おいしく楽しく食べるためには、歯や口が健康でよく噛んで食べることが重要です。このため、愛知県歯科医師会では、栄養バランスを考慮した「よく噛んで食べるように工夫を凝らしたオリジナルレシピ」作品を募集し、広く県民に発信・普及することで「8020 健康長寿社会」を目指しています。レシピは「キッズ(小中学生)」、「地産地消」、「高齢者向け」の 3 部門で募集しました。

愛知県歯科医師会 web サイト <https://www.aichi8020.net/>

●活動の成果、今後の課題

コロナ禍で学校が休校となったにもかかわらず 3 部門合計で 788 点の応募があり、2021 年 1 月 24 日に Web で行った第 41 回愛知県学校歯科保健研究大会で入賞者 12 名と 1 団体を表彰しました。今後も広く一般からレシピを募るほか、入賞作品の試食会を計画し、噛むことの大切さと健康との関係を、子どもを含む県民にさらに周知していきたいと考えています。



〈取組項目：歯の大切さについての子どもへの啓発活動の推進〉

〈取組場面：学校〉

E6 保護育成事業

碧南市立棚尾幼稚園

●実施時期：10 月 29 日 ●対象者：全園児

●内容

歯科医師、歯科衛生士を招き、歯の大切さ、虫歯予防のための正しい歯の磨き方、よく噛んで食べることの大切さの話をさせていただきました。また、乳歯のうちから強い歯、健康な歯となるようにフッ素塗布を行いました。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための歯の磨き方も教えていただきました。

●活動の成果、今後の課題


活動後の給食時、口を閉じてよく噛むことで食べたものが栄養となり、体が大きく強くなると声かけすると、今までよりしっかりと食材を噛もうとする姿が見られました。歯磨きやうがいの際、「口の中をきれいに磨かないと虫歯になっちゃうんだよね」と言ったり、口元を手で隠して飛沫が飛ばないようにしたりする姿が見られました。



〈取組項目：歯の大切さについての子どもへの啓発活動の推進〉

〈取組場面：保幼〉

3 食の安全に関する信頼の構築

食育推進講演会及び学校給食試食会		尾張旭市
●実施時期： 2020年11月26日、2021年2月25日		
●対象者： 市民		
●内容 学校給食センターで食の大切さ、食に関する正しい知識を学び、食生活の習慣を身につけてもらうことにより、健全な心身を育むことを目的とし、講演会及び学校給食試食会を行いました。 11月26日：14名参加 2月25日：17名参加		
●活動の成果、今後の課題 食育講演会及び学校給食試食会に参加してもらうことにより、学校給食を通じて食に関する正しい知識を学び、食の大切さを理解してもらいました。		
〈取組項目：食の安全に関する情報提供や意見交換〉		〈取組場面：学校〉

健康食品に関する情報提供		一般社団法人愛知県薬剤師会
●実施時期： 通年		
●対象者： 県民		
●内容 多種多様な食品が流通する現代において、個々の食品の特性を十分に理解し、自らの判断で食品を選択し適切に摂ることが求められています。 愛知県薬剤師会では、こうした現状を踏まえ、適切に健康食品を選択できるようにするための1つの参考情報として、収集した情報をまとめ、ホームページで情報提供しています。 また、愛知県市町村振興協会が主催する家庭介護者等養成研修に講師を派遣し、「高齢者が薬・健康食品と上手につきあう」をテーマに講義を行っています。		
●活動の成果、今後の課題 販売者側の話や広告に頼らず、自分の食生活や生活習慣を見直して、何が不足していて、何が必要なかを考えることで上手に健康食品を利用できます。 消費者の方が医薬品との違いや相互作用を正しく理解し、上手に健康食品を利用できるよう情報提供に努めていきます。		
〈取組項目：食品と医薬品との相互作用に対する普及啓発〉		〈取組場面：地域〉



食を通じて豊かな心を育むために

家族や友人と楽しみながら食事をとることや、様々な農作業体験、調理実習といった体験や交流を通じて豊かな人間性の育成と食の理解促進を図るとともに、地域に伝わる郷土料理、食事作法等を継承するための取組を行いました。

1 食を楽しむゆとりの確保

みんなで楽しく、何でも食べる

春日井市立岩成台保育園

●実施時期：通年

●対象者：保護者及び全園児

●内容

乳児期においては心地よい環境で、安心できる保育士と一緒に食事をする中で様々な食べ物に興味を持ち、自分で食べようとする気持ちを大切にしています。楽しく食事をする中で食事前後の挨拶やマナーを身につけられるようにしています。園内の畑で野菜を育て収穫した物を給食の食材に加え味わったり、家庭に持ち帰り話題にしたりしています。自分の食事に関わっている調理員や作られる過程に、興味や食べ物への感謝の気持ちを持てるようにしています。保護者には、園だよりや展示食を通して情報提供したり、食に関する相談に対し助言や支援をしたりして継続的な連携を図っています。



●活動の成果、今後の課題

今年度はコロナ禍での食事提供について工夫や配慮をしてきました。中でも楽しい雰囲気を大切にし、様々な食材や関係する物、人に興味を持てるよう話をしてきました。保護者との連携にも継続して取り組んでいきたいです。

〈取組項目：給食や弁当を通じた豊かな人間性の育成〉

〈取組場面：保幼〉



「シェフのスペシャルメニュー」

岩倉市

●実施時期：2021年1月22日

●対象者：全小中学校児童生徒

●内容

児童生徒の味覚を育て、食への知識や関心を高めることを目的として、レストランのオーナーシェフの指導のもとで調理し提供する「シェフのスペシャルメニュー」を実施しました。今年度は全国学校給食週間に先駆けて実施し、シェフが小学校を訪問しました。



●活動の成果、今後の課題

食材に愛知県産の農薬不使用の野菜や国産菜種油などを使用し、素材の味を生かしたメニューを提供することにより、野菜本来の旨味を味わうことができました。

〈取組項目：給食や弁当を通じた豊かな人間性の育成〉

〈取組場面：学校〉

コロナに負けるな！こどもスマイル応援事業

地元産品も一緒に応援します 学校給食グレードアップ大作戦

常滑市

●実施時期：6月～12月

●対象者：市内小中学校の児童生徒約5,500人

●内容

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、小中学校は臨時休業や各種行事の中止、縮小を余儀なくされました。こども達に一つでも多くの学校での楽しい思い出を作ってもらおうと、学校給食のグレードアップを企画し、地元の食材を使ったこども達が大好きなメニューを給食で提供しました。

メニュー例：知多牛の牛丼・コロッケ、常滑の牛乳を使ったアイス、市内菓子店のスイーツ、市内フランス料理店のシェフが監修した特別メニュー



「常滑牛乳もちシャリアイス」

●活動の成果、今後の課題

いつもより豪華な給食に、こども達は大変喜んでいました。また、地元で素晴らしい食材やお店がたくさんあることに改めて気付いてもらうことができたと思います。課題は、給食に対応した食材を提供できる店舗に限りがあることです。



市内フランス料理店シェフ監修

「知多豚と根菜のピネガー煮込み」

〈取組項目：給食や弁当を通じた豊かな人間性の育成〉

〈取組場面：学校〉

父の日プレミアムランチ ～幸田ハッピーネスプロジェクト～

幸田町

●実施時期：6月21日

●対象者：テイクアウト弁当を購入した町内在住、在勤者

●内容

幸田町文化振興協会、幸田町商工会が新型コロナウイルス感染症対策緊急企画として町内飲食店等の支援を目的に、テイクアウト弁当を販売するイベントを実施しました。イベントを町が後援するに当たり、購入者に食育啓発ラッピングを施したバラをプレゼントし、食育の普及を推進しました。



●活動の成果、今後の課題

幸田町文化振興協会、幸田町商工会が250個のお弁当をドライブスルー形式で販売しました。事前予約制のお弁当を、家族・友人と家で一緒に食べることを想定したイベントであり、「おうちでごはんの日」の周知や食育啓発を行う良い機会になりました。対象者全員に受け取っていただき、大変喜ばれました。



〈取組項目：家族や友人と食事をとるための環境整備〉

〈取組場面：地域〉

2 体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進

市制50周年記念食育絵本作成事業

尾張旭市

●実施時期：2021年3月1日から

●対象者：市民及び県民

●内容

市制50周年の記念事業として、市広報誌に掲載している「レシピの玉手箱」と市の特産品である「プチヴェール」を題材とした食育絵本「おいしくできたよ」を発行しました。

この絵本は、年長児から小学校低学年の子どもを対象としており、①子どもたちが「食」への興味を持つきっかけとなること、②市への関心や愛着を持つきっかけとなること、③読み聞かせ等により親子の絆を深める機会となることなどの実現による、食育の推進を目的としています。

●活動の成果、今後の課題

保育士を含む本市職員と食育の普及活動を行っている健康づくり食生活改善協議会による検討会で内容の検討を重ね、親子で楽しみながら食育を学ぶことができる絵本が完成しました。今後は、市関連施設等での閲覧のほか、保育園や家庭での読み聞かせなど、食育の啓発・推進に繋がる取組への活用を期待しています。



〈取組項目：乳幼児期における食とのふれあい機会の確保〉

〈取組場面：地域〉

クッキングカードを通して食育を家庭へ広げる

東郷町立和合保育園

●実施時期：7月～10月

●対象者：4・5歳児

●内容

食への興味関心を家庭にも広げる目的で、保育園で栽培した夏野菜やサツマイモを持ち帰り、それと一緒に「クッキングカード」を配布しました。カードに家庭でのクッキングの写真や絵、エピソードなどを親子で記入してもらい、提出されたカードは、掲示をして子どもたちがカードを見ながら親子クッキングについて発表を行いました。

●活動の成果、今後の課題

家庭での調理体験を通して、家族の中で食卓を囲んで野菜の話題が上がるなど、子どもたちの食への関心が高まりました。



〈取組項目：乳幼児期における食とのふれあい機会の確保〉

〈取組場面：地域〉

野菜や果物の収穫体験を通じた、地域交流

春日井市立外之原保育園

●実施時期：通年

●対象者：園児

●内容

近所の方の畑で園児23名が野菜や果物（大根・みかん・甘夏）の収穫体験をさせていただきました。実際に自分たちの手で収穫体験をすることで食べ物への興味や関心を広げ、食べることをより好きになってほしいと思い、行いました。収穫した野菜は家庭へ持ち帰り、様々な食材を口にする良い機会になっています。家庭で採れた食べ物について話題にしたり、苦手なものも食べてみようという意欲につながっています。

●活動の成果、今後の課題

この体験を通して子どもたちがより食べ物を身近に感じ、収穫だけでなく育て方・実のなり方・おいしく食べる方法などを学ぶことができ、より一層興味・関心が広がりました。また、地域の方との交流の場にもなっており、今後も続けていきたいと思えます。



〈取組項目：乳幼児期における食とのふれあい機会の確保〉

〈取組場面：保幼〉

夏野菜の栽培

尾張旭市立柏井保育園

●実施時期：6月17日

●対象者：年長児

●内容

野菜を育てることの難しさ、大変さを経験しながら生長することへの期待、喜びが持てるようにしていきました。地域ボランティアの方に育て方の指導を仰ぎながら、連携をとり、野菜への興味・関心を広げていくことができました。収穫した野菜は、保育士が子どもたちの目の前で調理（夏野菜スープ）をし、クラス皆でおいしく食べました。

●活動の成果、今後の課題

野菜が苦手な子ども自分たちで育てた野菜ということもあり、「食べてみたらおいしかった!」「おかわりしたい!」などの声が聞かれました。また、地域ボランティアの方に野菜の育て方を教えて頂く機会を持つことで、地域の方への親しみ、感謝の気持ちを持つことができました。



〈取組項目：乳幼児期における食とのふれあい機会の確保〉

〈取組場面：保幼〉

食育講座

田原市

●実施時期：2020年10月8日～2021年2月26日

●対象者：保育園児

●内容

野菜ソムリエの組織「ベジエール渥美」による食育講座を実施しました。野菜等の魅力を子どもたちに知ってもらうため、市内の保育園3園で実施し、クイズやゲーム、絵本の読み聞かせを行いました。

（当初は5園実施予定でしたが、2園は中止になりました。）

●活動の成果、今後の課題

家庭でも「食」について話がされ、野菜を利用、食するきっかけとなりました。専門知識をもつ「ベジエール渥美」と連携することで、活動内容に深みが増し、参加者からも好評でした。幼児期での、体験を交えた食育は効果が大きく、家庭での啓発にも繋がっています。

2020年度は新型コロナウイルス感染症により、試食ができなかったり回数を減らしたりと、影響が大きかったため、コロナ禍においても開催できる方法を検討していく必要があります。



〈取組項目：乳幼児期における食とのふれあい機会の確保〉

〈取組場面：保幼〉

親子魚料理教室

蒲郡市

●実施時期：2021年2月18日

●対象者：市内小学4～6年生とその保護者

●内容

魚の知識の取得及び水産物の消費拡大を目的とした地元の水産物を使用する魚料理教室を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、中止となりました。料理教室申込者へ、本教室で調理予定であったレシピを送付しました。

●活動の成果、今後の課題

本教室が魚や魚料理に関心を持つ機会になっていますが、一過性のものとするのではなく、継続的に水産物の地産地消につなげる必要があります。

〈取組項目：少年期から青年期を中心とした食に関する体験等の充実〉

〈取組場面：地域〉

お茶の出前授業

新城市

●実施時期：9月30日

●対象者：新城市立千郷小学校3年梅組 32名

●内容

しんしろ茶についての知識だけでなく、11月の学習発表の場で保護者の方においしいお茶を出したいので、お茶の美味しい入れ方を教えてほしいと学校側から依頼がありました。地元のお茶生産者の方を講師に迎え、お茶の種類や、おいしい入れ方を学びました。

本事業を通じて、児童が地域の方と交流し、地元の農産物について学ぶことで地域に親しみを持ち、食を通じて郷土愛を育む機会となりました。

●活動の成果、今後の課題

子どもたちからは、お茶に対する色々な質問があがり、講師の白井さんはとても嬉しそうでした。今回の出前授業を通じ、子どもたちがしんしろ茶の知識を深め、家庭に帰っておいしいお茶を入れてくれることで、お茶の消費拡大にも繋がったと思います。



〈取組項目：少年期から青年期を中心とした食に関する体験等の充実〉

〈取組場面：学校〉

「新型コロナをやっつけろ！しょくまると戦う STAY HOME 奮闘記」

作品募集

刈谷市

●実施時期：8月～9月 ●対象者：市内小学校5・6年生とその保護者

●内容

コロナ禍における食育の推進、夏休みの期間を活用して子どもたちが家族と一緒にしょくまるファイブについて考えることで、バランス良く食べることの大切さを知ってもらい、子どもの健やかな成長を促進しました。

●活動の成果、今後の課題

子どもたちが家族と一緒に、しょくまるファイブの5色（主食、主菜、副菜、果物、牛乳・乳製品）を意識すること、新型コロナウイルスの感染リスクを下げるために、食により丈夫な体を作ることの大切さを育むきっかけになりました。（応募者53人）



〈取組項目：少年期から青年期を中心とした食に関する体験等の充実〉

〈取組場面：学校〉

連合愛知 30周年事業ここあファーム『親子 de 農体験』

日本労働組合総連合会

●実施時期：8月、11月 ●対象者：連合愛知構成組織の組合員とその家族

●内容

食育に繋がる座学と、稲刈りや野菜収穫などの農業体験を通じ、食育を学べるイベントを計3回開催しました。収穫した農作物の一部はフードバンクへ提供し、フードロスやフードバンク活動への関心を高めました。

8月23日（日）「田んぼの生き物調査」「夏野菜収穫」

11月15日（日）稲刈り収穫祭

学習会「稲が米に変わるまで」体験「稲刈り・脱穀・唐箕掛け等」

11月29日（日）芋ほり大収穫祭

学習会「サツマイモができるまで」体験「サツマイモ掘り」等

11月に収穫した米、サツマイモの一部をフードバンクに提供しました。

●活動の成果、今後の課題

野菜収穫では、参加者から「子どもに収穫体験をさせられたことで、食の有難さを学べた」などの声が多く聞かれました。収穫した農作物をフードバンクに提供することと、提供した食材が福祉施設や生活に困窮しているご家庭に提供されることを学んで頂きました。

コロナ対策のための参加者規模の縮小が課題となっています。



〈取組項目：幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供〉

〈取組場面：地域〉

農業体験塾

清須市

●実施時期：通年 ●対象者：市民

●内容

市内の農地を借り、農業を通じて市民の方々に食の大切さや収穫の喜びを体験していただくとともに、地元の伝統野菜の栽培、普及を図りました。また、学んだ知識を子どもたちの農業体験指導サポートに生かし、食を通じた地域づくりにつなげました。

講師：農業従事者、JA職員

●活動の成果、今後の課題

食の大切さや収穫の喜びを体験することができました。

〈取組項目：幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供〉

〈取組場面：地域〉

親子で稲刈り体験とおはぎづくりに挑戦！

西尾市

●実施時期：8月

●対象者：市内在住の小学生以下の子と保護者

●内容

西尾市内在住の小学生以下の子と保護者を対象とし、生産者である JA 西三河稲作青年部員の指導で、稲刈り体験や部員が生産したお米で調理を行っています。2020年度はおはぎ作りを計画しました。

●活動の成果、今後の課題

参加者が集まったの体験や調理は行わず、JA 西三河稲作青年部と作成した『おはぎづくり動画』の配信及びおはぎ作りに使用する材料をセットにしたものを14組42名に配布しました。

多くのイベントが中止になる中で、JA 西三河稲作青年部と何度も相談し、実施することができました。



〈取組項目：幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供〉

〈取組場面：地域〉

「おいしいのには理由（わけ）がある 産直若鶏と煮こみ酢」

第1回オンライン学習会

生活協同組合コープあいち、生活協同組合連合会東海コープ事業連合

●実施時期：11月30日

●対象者：コープあいち組合員

●内容

地産地消、産消提携、産直を柱に日本の食料自給率向上の取組を「あいちを食べよう、日本の食を大切に大運動」としてすすめ、稲作体験・収穫体験・産地見学などを行っていますが、生産者、メーカーの皆さんに協力していただき「オンライン学習会」を計画しました(参加者37名)。第2回オンライン学習会は2021年3月10日に「COOP天然醸造豆みそ～味噌は育てる～」を行いました(参加者36名)。

●活動の成果、今後の課題

参加者にはプログラムを楽しんでいただき、商品学習、調理動画、食レポの内容が好評でした。また、普段参加できない方が、オンラインなので参加できて良かったという声があり、コロナにもかかわらずリモートの良さが現れたと思います。課題は、安定した通信状態の確保です。



オンライン学習会

(講師の生産者・メーカーのみなさん)

〈取組項目：幅広い層に向けた体験・交流の機会の提供〉

〈取組場面：地域〉

3 日本の食文化や郷土料理等の理解と継承

食育指導と給食試食会

蟹江町 蟹江町立保育所 蟹江町給食センター

●実施時期：食育指導・・・2020年5、6月、2021年1月

●対象者：年長児

●内容

児童への食育指導として年2回の箸指導と三色分けのお話に加え、2回目の指導で、将来の食生活に重要な減塩と味覚の話をしています。今回は1月の指導ということで行事食についての指導も行いました。

月1回各地の郷土料理を提供していること、地産地消についてもお話ししました。

●活動の成果、今後の課題

箸の持ち方、減塩について幼児期で学び、正しい知識に触れる機会を作ることで今後の食生活への向上につながると考えています。5、6月については資料のみの配布とさせていただいたので掲示資料を作成し活用していただきました。



〈取組項目：子どもに対する食事作法の習得〉

〈取組場面：保幼〉

学校で使用する食育教材「お箸カード」の作成

愛知県栄養教諭研究協議会

●実施時期：通年

●対象者：県内の公立学校に勤務する栄養教諭・学校栄養職員

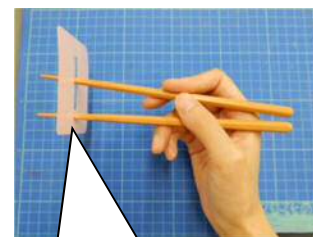
●内容

本協議会の研究テーマの1つに「食文化の伝承」があります。2020年度は、食育教材「お箸カード」とそれを活用した授業の指導案・デジタル資料を作成し、実践しています。食育の授業では、子どもたち一人一人がお箸カードを使って、正しい箸の持ち方や動かし方を練習しています。

「新しい生活様式」で過ごす中、給食の時間は会話を禁止しています。会食中の会話を楽しむことできませんが、逆にお箸の使い方をこれまで以上に意識することができます。給食の時間は、授業で学んだお箸の使い方を練習するよい機会となっています。

●活動の成果、今後の課題

授業の始めはうまく動かせなかった子どもたちも、少しずつ上手になっていきました。時間内にうまく使えなかった子どもとは、給食の時間や休み時間に一緒に練習をしました。子どもたちからは「最初は難しいと思ったけど、お箸カードを使って練習したらできるようになった。」という声が聞かれました。そして、食器にごはん粒を残さずきれいに食べられる子どもが増えました。



下の穴に箸を刺して固定し、
上の箸のみを動かす練習をします。

〈取組項目：子どもに対する食事作法の習得〉

〈取組場面：学校〉



県産畜水産物提供事業を利用した学校給食の献立作成と

献立を活用した食育

愛知県栄養教諭研究協議会

●実施時期：2020年8月～2021年3月

●対象者：県内の公立学校に勤務する栄養教諭・学校栄養職員

●内容

本協議会の研究テーマの1つに「地場産物の活用」があります。2020年度は、学校給食へ県産畜産物水産物等の提供事業がありました。その制度を活用して、県内各市町村で学校給食の献立に、牛肉、名古屋コーチン、うなぎ、にじます、しらす干し、抹茶などを使用しました。食材や料理について、校内放送、ひと言栄養指導、掲示物、ホームページ、食育日よりなど、さまざまな方法で子どもたちや家庭に紹介し、地場産物への理解が深まるよう工夫しました。



●活動の成果、今後の課題

めったに食べられない食材を味わうことができ、子どもたちにとっては「新たな食の体験」となりました。小学校低学年では、「うなぎ」や「にじます」を初めて見る、食べるという子どもも少なくありませんでした。初めは恐る恐る口にした子どもたちからも「おいしかった！また食べたい！」という感想が多く聞かれました。



〈取組項目：給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進〉

〈取組場面：学校〉

学校給食における地域生産者との連携

飛島村立飛島学園

●実施時期：6月19日

●対象者：生徒

●内容

6月19日を「あいちを食べる学校給食の日」とし、愛知県や飛島村産の食材を多く使った給食（牛乳・ごはん・ねぎ鶏つくね・みつばの和え物・トマトと卵のふわふわ汁）を提供しました。農産物を提供する飛島村のみつば農家、ねぎ農家、養鶏農家さんを取材し、生産者の農産物に対する思いや飛島学園の生徒に向けてのメッセージをいただきました。これをもとに掲示資料を作成して生徒に伝えました。



●活動の成果、今後の課題

生徒たちは身近な人々の作った農産物を給食で味わいながら地域の産物に関心を持ち、地産地消の大切さについて理解を深めることができました。またこの取組はJAの広報紙に取り上げられ地域の方々に地産地消給食の利点を伝えることができました。日々の給食にも地元農産物を利用することが多いが、継続的に生徒へ啓発を行い、生徒の郷土に対する愛着を育てていきたいです。



〈取組項目：給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進〉

〈取組場面：学校〉

みよし市産富有柿を使用した給食メニュー

JA あいち豊田 みよし市

●実施時期：9月30日、11月30日

●対象者：市内小中学生・保育園児

●内容

みよし市の特産品である柿の規格外品を集めピューレにすることで、何か有効活用できないかとの相談をJAから受け、是非給食に使えないかと、JAや製菓工場や給食センターの協力を得て、柿ゼリーと柿ピューレ入りカレーを開発しました。ゼリーは9月30日に、カレーは11月30日に市内小中学校及び市立保育園の給食メニューとして提供されました。また11月30日のカレー提供の際は、柿ピューレに関する紹介文を用意し小中学校の全クラスでの掲示及び校内放送を実施、児童生徒への食育啓発を行いました。



●活動の成果、今後の課題

ゼリーは好みが分かれたが、カレーは大変好評でした。従来なら処分されていた規格外のみよし市産富有柿を100%使用した柿ピューレを有効活用することで、地産地消の推進、食品ロスの軽減につなげることができました。そしてこのゼリーやカレー誕生の経緯を、給食を食べる児童生徒に伝えることで、食育啓発の良い機会となりました。

〈取組項目：給食等における地場産物や郷土料理等の導入促進〉

〈取組場面：学校〉

小牧市HP「おうちごはんを楽しもう」掲載

小牧市

●実施時期：通年

●対象者：市民

●内容

コロナウイルス感染拡大防止のため、外食の機会が減り、ご家庭で食事を作る機会が増えています。そこで、初めての方でも気負わずに作れる簡単おせちや減塩メニューを市ホームページに掲載しました。

●活動の成果、今後の課題

掲載したメニューを、どれだけの方が実際に作り家庭料理に取り入れているかの把握が難しいことが課題ですが、より関心の高い分野についての発信を継続的に行い、市民の方に定着するように働きかけます。



〈取組項目：日本型食生活の推進、郷土料理等の地域の食文化の継承〉

〈取組場面：地域〉

農政講座「五平餅作り」「いちじくを使った米粉デザート作り」「みそ作り」 オンライン農政講座「飾り巻き寿司作り」

尾張旭市

●実施時期：2020年7月、8月、11月 2021年1月

●対象者：市民（親子、一般）

●内容

地域の伝統食・郷土食や旬の食材の調理法を知ることで、手作りの楽しさや安全性を実感してもらおうとともに、食生活を見直す機会を作ること、米や地元農産物（特産品）を普及啓発することを目的として、7月に「五平餅作り」講座、8月に「いちじくを使った米粉デザート作り」講座、11月に「みそ作り」講座を実施しました。また、11月にはオンラインで「飾り巻き寿司作り」講座を実施しました。



●活動の成果、今後の課題

地元産の米粉や特産品のいちじくを使い、地産地消を推進しました。地元農産物を使った調理法や特産品の魅力を伝え、食の大切さを理解していただきました。

〈取組項目：日本型食生活の推進、郷土料理等の地域の食文化の継承〉

〈取組場面：地域〉

守口大根収穫体験及び粕漬け体験学習

扶桑町守口大根漬物組合・株式会社扶桑守口食品・扶桑町

●実施時期：2020年10月～2021年2月

●対象者：小学校（4校）3年生～5年生

●内容

扶桑町に対する愛着や誇りを育むことを目的とし、地産地消や食育を含め、扶桑町の特産品である守口大根について、扶桑町守口大根漬物組合（生産者）と株式会社扶桑守口食品（加工業者）の協力を得て、3年生は収穫、4年生は二度の漬け込み、5年生は仕上げ漬けを経て守口漬けになるまで、3年をかけて体験しながら学びます。

●活動の成果、今後の課題

守口大根の体験学習を行うことで、家庭でも守口大根のことが話題になっているという声を聞き、町の特産品として、より身近な物になっています。

新型コロナウイルス感染症により、大人数が集まっての体験学習は懸念されていますので、今後も対策を取りながら実施していく予定です。

〈取組項目：日本型食生活の推進、郷土料理等の地域の食文化の継承〉

〈取組場面：地域〉

●実施時期：2021年3月13日

●対象者：市民等

●内容

食文化の保護・継承のための取組支援：2021年3月13日に食文化継承料理講習会としてオンラインによる味噌作り講習会を実施しました。また、食品衛生協会、大学と連携して食文化が地域に定着し継承されるための方策の検討及びメニュー開発を実施しました。

食品ロス削減に向けた取組：おかざき健康・食育だより「まめ吉通信」食品ロス特集号を作成し、保育園・こども園・幼稚園・小中学校及び飲食店等に45,000部配布しました。また、食品ロス削減レシピを作成し、飲食店・スーパー・公共施設等に1,000部配布しました。

●活動の成果、今後の課題

2019年度「食育」に関するアンケート調査では、郷土料理である煮味噌の認知度が41.9%と前回調査と比較して後退していましたが、教室等を通して食文化の継承について理解を深めていただくことができました。今後も関係団体と連携した、食べる機会の提供や家庭での実践につなげる取組が必要です。



〈取組項目：日本型食生活の推進、郷土料理等の地域の食文化の継承〉

〈取組場面：地域〉





食を通じて環境に優しい暮らしを築くために

「もったいない」の心を持って、食べ残しを減らしたり身近な地域でとれる農林水産物を積極的に活用する地産地消を進めるなど、食べ物の消費と生産の両面から、環境への配慮に取り組みました。

1 食生活における環境への配慮の徹底

環境学習副読本「わたしたちと環境」の作成・配付

愛知県環境活動推進課

●実施時期：2021年3月下旬 ●対象者：小学生(4年生)

●内容

愛知県内の小学校4年生に環境学習副読本を作成・配付しています。

(名古屋市は各校1冊) 発行部数：56,500部

<http://kankyojoho.pref.aichi.jp/Download/FileInfo.aspx?ID=124>

●活動の成果、今後の課題

配付した学校にアンケートを実施したところ、回答があった学校のうち70%以上が授業等で活用していました。



〈取組項目：子どもに対する環境学習の推進〉

〈取組場面：学校〉

食品ロス削減環境学習プログラムブース出展の実施

愛知県資源循環推進課

●実施時期：11月5日、11月28日 ●対象者：県民

●内容

本県では、家庭の消費行動に影響が大きい小学生を対象とした、動画やゲーム(クイズすごろく)を通して食品ロス問題について楽しく学べる食品ロス環境学習プログラムを作成し、啓発を行っています。

2020年度は11月5日に名古屋市東区で開催された食品ロス削減イベント及び11月28日に一宮市で開催されたLet's エコアクション in AICHIにおいてブース出展を実施しました。

動画の上映、パネル展示、啓発資材の配布等によって幅広い年代の方に食品ロス削減についての啓発を行いました。

●活動の成果、今後の課題

2日間合わせて241の方がブースに訪れ、82の方にプログラムを体験していただきました。プログラム体験後に実施したアンケートでは、81%の方が「食品ロスの問題についてよく分かった」と回答するなど、プログラムが食品ロスの学習に効果的であることが分かりました。

今後は、学校の授業や市町村のイベントでもプログラムを活用していただき、更なる普及を目指します。



〈取組項目：環境に配慮した食生活の実践〉

〈取組場面：地域〉

食品ロス削減イベントの開催

愛知県資源循環推進課

●実施時期：11月5日 ●対象者：県民、食品関連事業者

●内容

食品ロスの問題を県民や食品関連事業者の皆さんに考えていただくため、食品ロス削減イベントを名古屋市のアオアシス21で開催しました。

イベントではNPO法人セカンドハーベスト名古屋の山内大輔理事長によるフードバンクの重要性や食品ロスの現状などについての講演、芸人の「家事えもん」こと松橋周太呂さんによる調理の時に食品ロスを減らすコツや、余りがちな食材を使い切るための料理レシピについてのトークショーを行いました。このほか、フードドライブや食品関連事業者等によるパネルディスカッション、ブース出展が行われました。



●活動の成果、今後の課題

延べ約400名の方に参加いただき、フードドライブでは108点・42kgの食品が寄付され、食品ロス削減への理解を深める機会になりました。今後も取組を継続し、食品ロス削減の意識向上を図ります。

〈取組項目：環境に配慮した食生活の実践〉

〈取組場面：地域〉

無駄や廃棄の少ない調理講習会

愛知県食育消費流通課

●実施時期：2021年1月25日、28日 ●対象者：県民

●内容

「環境に配慮した食生活の実践」啓発のため、家庭でできる食品ロス軽減の取組について学ぶ調理講習会を2回(名古屋市、刈谷市)開催しました。

愛知みずほ短期大学の横山先生を講師としてお招きし、食品ロスの発生を抑えたメニューについて調理実演等を行うとともに、食品の保存方法等に関する講話をいただきました。参加者：48名(2日間)

レシピURL

<https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/assets/pdf/column/266recipe.pdf>



●活動の成果、今後の課題

感染症拡大防止のため、講習会中に試食はできませんでしたが、バナナの皮の調理活用法などについて熱心に聞き入っていました。

受講者の3週間後の状況について調査したところ、「食品ロス削減に向けた行動をしている」と答えた人の割合が講習前の12%から50%と、大幅に増加しました。この調理講習会をきっかけとして、食品ロス削減や地産地消が県民運動として定着することを期待します。



〈取組項目：環境に配慮した食生活の実践〉

〈取組場面：地域〉

2 農林水産業への理解と地産地消の一層の推進

あいちの農業用水展

愛知県農地計画課

●実施時期：8月1日～7日 ●対象者：県民

●内容

農家や先人の努力の積み重ねにより守り育まれてきた「農業用水」を中心に、「水」の重要性について、広く県民の方の関心と理解を深めてもらうことを目的に、「水の週間(毎年8月1日～7日)」の関連行事として、1991年度から実施しています。

例年は県民参加型イベントとして開催していますが、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、非接触型イベントとし、愛知県を流れる3つの大きな河川である木曾川、矢作川、豊川を水源とした農業用水の歴史や農業水利施設の役割を紹介するパネル展を名古屋市のセントラルパーク市民ギャラリーで開催しました。

●活動の成果、今後の課題

多くのPRイベントが中止・縮小される中、たくさんの方にご覧いただき、水の大切さや農業用水の歴史等について学んでいただくことができました。今後も継続してこのようなイベントを開催し、より多くの県民に啓発していくことが必要だと考えます。



〈取組項目：農林水産業への関心と理解を深める取組の推進〉

〈取組場面：地域〉

県産牛肉等学校給食提供推進事業

愛知県畜産課

●実施時期：2020年7月～2021年3月 ●対象者：小学校、中学校等の児童及び生徒

●内容

新型コロナウイルス感染症の影響により、外食産業での消費が中心である県産牛肉や名古屋コーチン（以下、県産牛肉等）について、需要の急速な停滞により、価格の下落等が顕著となりました。

そこで、小中学校等の学校給食に県産牛肉等を提供することで、児童や生徒を応援するとともに、県内畜産農家や食肉事業者を支援しました。

小中学校等に県産牛肉等を提供する際には、県産牛肉等の食育教材を配布し、県産牛肉等の理解の促進を図りました。

●活動の成果、今後の課題

県内の全市町村に県産牛肉等を提供しました。その結果、「おいしかった」「継続して実施してほしい」という声が多く聞かれました。また、食育教材により、「県産牛肉等の理解が深まった」という声も聞かれました。



〈取組項目：子どもに対する地産地消の理解と利用の促進〉

〈取組場面：学校〉

県産水産物学校給食提供推進事業

愛知県水産課

- 実施時期：2020年12月～2021年3月
- 対象者：小学校、中学校等の児童及び生徒

●内容

新型コロナウイルス感染症の影響により、在庫が滞留している県産水産物（ウナギ、ニジマス、シラス）を学校給食食材として提供し、児童生徒の農林水産業への理解促進と県内漁業者、養殖業者、水産加工業者を支援しました。

●活動の成果、今後の課題

県内の50市町村の小中学校等に県産水産物を提供しました。児童からは「おいしかった、毎日食べたい」との感想があった他、栄養教諭からは「甘露煮など頭のついた魚を初めて食べる児童も多く、学校給食で新しい食の体験をすることができた」などの意見がありました。



〈取組項目：子どもに対する地産地消の理解と利用の促進〉

〈取組場面：学校〉

愛知県産牛肉・名古屋コーチン肉無償提供事業の活用 （食育指導における地産地消への理解度向上）

美浜町学校給食センター

- 実施時期：2020年9月～11月、2021年2月～3月
- 対象者：美浜町全小中学校

●内容

「県産牛肉等学校給食提供推進事業」を活用した給食献立を実施し、普段給食で味わうことのない地場産物である県産牛（地元産知多牛）と名古屋コーチンの食材PRを行いました。地場産物の質の良さを児童生徒が体験することで家庭での話題を呼び、食育における地産地消への理解を深め、消費拡大へのきっかけづくりとしました。

●活動の成果、今後の課題

とても美味しかったと好評で、コロナ禍の影響により黙食で給食を喫食している中、子どもたちに元気を与え、食事を楽しむことや地場産物のPRに大いに役立ちました。しかし、こうした無償提供事業がない限り、地場産物であっても経費の都合上、県産牛等はなかなか給食では使用ができず、PRは難しいと思われれます。



〈取組項目：子どもに対する地産地消の理解と利用の促進〉

〈取組場面：学校〉

SNS を利用した食育啓発事業

安城市

●実施時期：2020年7月～2021年3月

●対象者：不特定多数

●内容

より広く食育・地産地消（安城市の特産品）をPRするため、SNS を利用した啓発を行いました。

●活動の成果、今後の課題

「おいしいあんじょう」として、フェイスブック・ツイッター・インスタグラムでアカウントを取得、旬の安城産農産物をPRしました。

インスタグラムフォロワー数 1,246 (2/15 時点)





〈取組項目：青年期以降における地産地消の実践〉

〈取組場面：地域〉



3 農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底

連合愛知 30 周年事業ここあファーム		日本労働組合総連合会
<p>●実施時期：通年</p> <p>●対象者：県民</p>		
<p>●内容</p> <p>フードバンク NPO「セカンドハーベスト名古屋（2HN）」に農作物を提供するため、連合愛知 30 周年事業「ここあファーム」として農園事業をスタートしました。</p> <p>提供する農作物はお米をはじめ、2HN を利用する福祉施設の要望を踏まえ、腐りにくく栄養価の高い根菜類を中心に提供し、2HN を通じ児童養護施設や子ども食堂等、各施設に利用して頂きました。</p> <p>農作物の一部はここあファームのイベントとして、連合愛知加盟組織の組合員とそご家族に収穫して頂き、フードバンクの取り組みについて理解を進めました。</p>	 	
<p>●活動の成果、今後の課題</p> <p>1 年間で提供した農作物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お米 560kg ・農作物 1,366kg(ニンジン・ジャガイモ・サツマイモ・タマネギなど) <p>根菜類を中心としたことで、提供する時期が 6 月前後と 11 月前後に偏りがあるなど課題が見受けられました。今期においては品種の変更などを行いバランスよく提供できるよう改善していきます。</p>		
<p>〈取組項目：フードバンク活動の普及啓発〉</p>		<p>〈取組場面：地域〉</p>

ドライブスルー型「フードドライブ」の実施		小牧市
<p>●実施時期：6 月 19 日、12 月 18 日</p> <p>●対象者：市民</p>		
<p>●内容</p> <p>食品ロスの削減をはじめ、食育の啓発活動として、ドライブスルー型「フードドライブ」を実施しました。市民や職員からレトルト食品、米、飲料などを寄附していただきました。集まった食品は、小牧市善意銀行に寄附し、生活困窮者支援につながりました。</p>	 	
<p>●活動の成果、今後の課題</p> <p>感染症拡大防止対策を行いながら、フードドライブ事業を通じた支え合い活動を行うことができました。</p>		
<p>〈取組項目：フードバンク活動の普及啓発〉</p>		<p>〈取組場面：地域〉</p>



食育を支える取組

食育を効果的に推進するため、市町村を始めとする関係者との連携を図りつつ、「食育にかかる人材の育成と活動の充実」、「関係者の役割分担とネットワークの充実」及び「いいともあいち運動の推進」について取り組みました。

1 食育にかかる人材の育成と活動の充実

学生料理レシピコンテストの開催

愛知県食育消費流通課

●実施時期：10月22日

●対象者：県内の管理栄養士・栄養士を目指す学生等と調理師を目指す学生等

●内容

「第15回食育推進全国大会 in あいち」（新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）の関連企画である「学生料理レシピコンテスト」の審査会を、10月22日（木）に名古屋市内で実施しました。

このコンテストでは、愛知県内の管理栄養士・栄養士を目指す学生等と調理師を目指す学生等がコラボチームを結成し、『今、子どもたちに食べてもらいたい“元気レシピ”！』をテーマに、愛知県産の食材を使い、おいしさだけでなく栄養面のバランスや食物アレルギーにも配慮した、アイデア満載のレシピを考案しました。

本来は学生が全国大会のステージで調理実演し競う予定でしたが、大会の中止でかわらず、代わりにプロの調理員が調理・審査を実施しました。

コンテストに出場した全8チームのレシピからは、栄養や調理の技術を学ぶ学生の日頃の努力がうかがえ、どのレシピも魅力的で甲乙付けがたく、審査はとて難航を極めました。

各チームのレシピや審査結果・講評についてはこちらを参照ください。

<https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/plan/katsudou.html>

●活動の成果、今後の課題

参加した学生からは、「味と栄養のバランスを考え、学校間でお互いの意見にどう折り合いをつけるか難しかったが、新たな気付きもあり、相互理解につながりとてもためになった。」といった感想がありました。

学校や企業、病院等の給食施設では、共に働く管理栄養士・栄養士と調理師のコミュニケーションがとて重要です。今回、コンテストを通して、献立を考える人と調理する人がしっかりと話し合い、協力することの重要性に気付くよい機会となりました。

また、学生のみならず、審査や調理において協力していただいた団体や企業の方々とも新たな連携を図ることができました。こうした連携や協働を財産として、今後も本県の食育の一層の推進に努めていきます。



〈取組項目：保育・教育機関における推進体制の充実〉

〈取組場面：学校〉

名古屋文理大学との連携事業

安城市

●実施時期：9月

●対象者：名古屋文理大学学生及び市民

●内容

包括協定を締結している名古屋文理大学の学生へ、学ぶ機会の創出と、本市における食育の課題を学生の柔軟なアイデアを参考にすることで、相互に連携し、市民へ「食育を知る機会」を提供することを目的としています。名古屋文理大学学生が考案する「ANJO-DON(安城丼)レシピコンテスト」(安城市産の農畜産物を利用する丼レシピ)を実施し、市役所食堂で提供しました。

●活動の成果、今後の課題

応募総数 78 点(入賞 5 点)

11月13日～12月11日までの毎週金曜日に入賞5点を食堂で販売しました。



〈取組項目：保育・教育機関における推進体制の充実〉

〈取組場面：学校〉

知多地域食育推進ボランティア研修交流会

愛知県知多農林水産事務所

●実施時期：11月10日

●対象者：食育推進ボランティア、関係団体、行政職員

●内容

知多地域のボランティアと関係者が食育について学び、交流を図る場として毎年開催しています。

2020年は、「いいともあいち運動について」、「愛知県の食育推進について」、「食品表示について」の3つのテーマの研修を行い、後半の交流会では、愛知県酪農農業協同組合の担当者が、若手酪農家や牧場従業員等の活動である「牛好き net 愛知」のPRのために、酪農、食育に関わる歌をギターの弾き語りで披露し、その後、食育推進ボランティアと市町より活動・取組内容の発表と意見交換を行いました。(当日出席者：30名)

●活動の成果、今後の課題

出席者からは、「コロナ禍で活動ができず、家に閉じこもりがちだったが、元気が出たので参加して良かった。」「今回のようないろいろな団体が参加する会議は久しぶりなので良かった。」「地域産の食品を選ぶ意識が高まった。」等の感想が寄せられるなど好評でした。

今後も、出席者が楽しめる有意義な研修交流会となるよう工夫していきたいと考えています。



〈取組項目：愛知県食育推進ボランティアの育成と活動の充実〉

〈取組場面：地域〉

2 関係者の役割分担とネットワークの充実

参考となる学校給食メニューの掲載

公益財団法人愛知県学校給食会

●実施時期：通年

●対象者：栄養教諭等

●内容

5月に愛知県教育委員会から県内の栄養教諭等に出された課題「学校給食の献立を教材として活用した食に関する指導計画」の中から参考となる学校給食メニューとして、主菜からデザートまで12種類の料理を紹介しました。

<http://www.aigaku.org/fukyuu/reshipi/index.html>



地場産物を活用した料理や摂取しづらい栄養素を上手に取り入れた料理等を掲載しました。栄養教諭等が学校給食の献立を作成する上で参考にいただければと思います。

●活動の成果、今後の課題

県内の他地域の料理をホームページで情報発信することで、献立の充実を図ることができます。

今後も愛知県教育委員会の協力のもと、学校給食献立をさらに充実させるため、掲載メニューを増やしていきたいと考えています。

〈取組項目：既存のネットワークを活用した関係者間の情報共有〉

〈取組場面：地域〉

消費生活情報「あいち暮らしっく」の発行

愛知県県民生活課

●実施時期：通年

●対象者：県民

●内容

悪質商法への注意喚起を始め、消費者事故やエシカル消費など、消費生活全般についての情報を提供することにより、主体性のある消費者の育成を目的として、「消費生活情報あいち暮らしっく」を発行しました（年6回）。そのうち、142号、144号で、エシカル消費の取組である地産地消や食品ロス削減等の食育推進に関する記事を掲載し、県民への啓発を行いました。

●活動の成果、今後の課題

今後も引き続き食育に関する情報を発信していくとともに、エシカル消費ポータルサイトにおいても情報発信をしていきます。



〈取組項目：既存のネットワークを活用した関係者間の情報共有〉

〈取組場面：地域〉

3 いいともあいち運動の推進

いいともあいち運動シンボルマーク（あいまる）の貼付促進

愛知県食育消費流通課

●実施時期：通年

●対象者：県民

●内容

愛知県版地産地消の取組である「いいともあいち運動」を広く県民の方々に周知するため、いいともあいちネットワーク会員に対して、県産農林水産物を使用した商品のパッケージや包装紙などへ、運動のシンボルマーク（あいまる）を貼付する取組を推進しています。

シンボルマークのシールを作成し、いいともあいち運動関連のイベントでより手軽に商品パッケージ等へ貼付していただけるよう PR しました。

また、県の WEB ページ「いいともあいち情報広場」にシンボルマークを貼付した商品情報を掲載し、広く県民の方々に PR しました。

●活動の成果、今後の課題

2020 年度は、新たに 128 商品にシンボルマークが使用されました。

（※商品数は 2021.3 月末現在）

また、北名古屋市の学校給食では、県産の小松菜を使用したコロッケにシンボルマークをプリントする目新しい取組もありました。今後も、シンボルマークの貼付を通して、いいともあいち運動の認知度向上及び県民の方々の地産地消に対する意識向上に努めていきます。



〈取組項目：運動の定着促進〉

〈取組場面：地域〉

「いいともあいち運動」って知ってる？




県内の消費者と生産者が
今まで以上にいい友関係になる
Eat more Aichi products
(イート モア アイチ プロダクツ)
もっと愛知県産品を食べよう
(利用しよう)

V 県や関係団体の取組一覧

2020年度に県や関係団体などが実施した、プランで位置付けた取組は次のとおりです。

「IV 2020年度の主な取組の状況」等で紹介した取組以外の取組の内容については、愛知県食育消費流通課までお問い合わせください。

 食を通じて健康な体をつくるために		
バランスのとれた規則正しい食生活の実践		
取組主体、団体名	取組名称	ページ
春日井市	乳幼児健康相談	
小牧市保健センター	児童館訪問栄養相談	
尾張旭市	離乳食教室	
清須市	乳幼児健診（10か月・1歳6か月・3歳）	
	乳幼児健康相談	
	離乳食講習会	
東郷町	離乳食教室（YouTube）	17
蟹江町	5歳児健診における食育の普及啓発	
大府市	3歳児健診時の「集団あそび&朝ベジ指導」	
碧南市	乳幼児健診時における栄養資料の個別説明と配布	
刈谷市	離乳食レシピの回覧及び配布	
	畑の栽培や収穫を通して野菜に親しもう	
豊川市	離乳食を始める前に（4ヶ月児健診の場を活用）	
愛知県国公立幼稚園・こども園長会 （安城市立安城北部幼稚園）	調理員さんや栄養士さんに、給食の話を聞こう	18
春日井市立牛山保育園	今日の献立なにかな？	
春日井市立瑞穂保育園	食育の日	
尾張旭市健康づくり食生活改善協議会	食育巡回教室	
尾張旭市立藤池保育園	食事のマナーについて	
清須市	望ましい食習慣	
津島市	YouTubeによる食育の発信	
愛西市	大型仕掛け紙芝居「コウくとバランスマン」	18
碧南市	地域で育った食材に親しみをもち、食べる	
愛知県小中学校長会 給食委員会	「生きる力」を育む、健康教育の推進と食に関する指導の充実 ～栄養教諭の専門性を生かした食育の推進のための調査研究～	

取組主体、団体名	取組名称	ページ
愛知県食育消費流通課	「あいち学校給食絵画コンクール」の作品展示	19
東郷町給食センター	学級訪問栄養士指導（小学校）	
	学級訪問栄養指導（中学校）	
半田市内小中学校	食に関する指導	
南知多町	食に関する指導	
刈谷市学校給食センター	家庭科授業「どんな食事がよいのか考えようの学習」	
	小学校2年生を対象とした給食訪問指導 「食まるパワーのひみつを知ろう」	
	「食生活に関するアンケート」の実施	
	中学校1年生を対象とした給食訪問	
公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団	学校教育支援事業（出前講座）	
半田市	児童体験農業	
西尾市	西尾市観光協会食部会による食育講座	19
設楽町	おいしい味探し体験「豆苗の栽培体験」	
長久手市	給食センター施設見学試食会	
	給食だよりの発行	20
知立市	知立市学校給食レシピ集の配布	
尾張旭市	健康朝食メニュー「簡単！グッドバランス！朝ごはん ～元気のスイッチを入れよう～」コンテスト	
設楽町	「朝ごはんありがとう」普及啓発チラシの作成・配布	20
尾張旭市	ヤングのうちから健康みつめ隊	
みよし市	食育講演会	21
一宮市	幼児食教室 ～離乳食を卒業したら～	
春日井市	パパママ教室・日曜パパママ教室	
	妊産婦ケア事業	
尾張旭市	妊産婦栄養教室だし活のすすめ ～おうちで和食～	
清須市	パパママ教室	
長久手市	離乳食教室	
阿久比町	食に関するミニ講座	
東浦町	マタニティ教室 食育編	
	赤ちゃん教室 もぐもぐ編	
	赤ちゃん教室 かみかみ編	
	げんきっ子教室	

取組主体、団体名	取組名称	ページ
豊川市	もうすぐ3歳！知っ得教室	22
公益社団法人 愛知県栄養士会	オーガニック朝市村栄養相談	
春日井市	ばばっと簡単！バランスよし！出張料理	
尾張旭市	シニアのための栄養講座	
	骨コツヘルスアップ教室	
東郷町	65歳の方のための出張講座「シニア世代に必要な食事～低栄養予防って？～」	
	低栄養予防料理教室「簡単・おいしい・栄養満点教室」	
長久手市	フレイルを予防する生活	22
春日井市	春日井市配食サービス利用助成事業	
稲沢市	野菜たっぷり・塩ちょっぴり推進店	
尾張旭市	令和2年度食生活改善普及運動	
蟹江町	集団検診における野菜摂取量増加の普及啓発	
半田市保健センター	野菜の手ばかり目ばかり事業	
知多市	野菜を食べようプロジェクト「野菜たっぷり！！ヘルシーメニュー」	23
	食育の日啓発月間	
安城市	旬の食材を使用したレシピの提供	
豊田市	「野菜の日」に向けた取組	23

生活習慣病や過度な痩身等の予防

取組主体、団体名	取組名称	ページ
刈谷市学校給食センター	「生活習慣病の予防」を取り上げた授業の実施	
一般社団法人愛知県歯科医師会	第10回もっと噛んで歯ッピーレシピコンテスト	24
清須市	健康づくり	
碧南市築山保育園	E6 保護事業	
碧南市棚尾幼稚園	E6 保護育成事業	24
清須市	市民健康講座「しなやか血管づくり教室」	
尾張旭市	知って得する！健康プラス教室	

食の安全に関する信頼の構築

取組主体、団体名	取組名称	ページ
愛知県食育消費流通課	食品表示 110 番の運営	
	研修会やパンフ等による表示制度の理解促進	
尾張旭市	給食センター見学	
	食育推進講演会及び学校給食試食会	25
愛知県生活衛生課	HACCP 導入基礎研修	
一般社団法人愛知県薬剤師会	健康食品に関する情報提供	25
岩倉市	乳と卵の除去食の提供	



食を通じて豊かな心を育むために

食を楽しむゆとりの確保

取組主体、団体名	取組名称	ページ
春日井市立松原保育園	給食の展示	
春日井市立勝川北部保育園	乳幼児への食育指導	
春日井市立小野保育園	2ヶ月に1回の食育指導	
春日井市立味美保育園	給食の展示	
春日井市立下津保育園	みんなで楽しく、何でも食べる	26
春日井市立柏原保育園	食育指導	
春日井市立西部保育園	お腹がすくリズムの持てる子ども、食べたいもの、好きなものが増える子ども、一緒に食べたい人がいる子ども、食べ物を話題にする子ども	
春日井市立岩成台保育園	みんなで楽しく、何でも食べる	
東郷町立中部保育園	命を「いただきます」	
東郷町立たかね保育園	給食でみんなハッピー	
愛西市立佐屋中央保育園	毎日の給食を通して食材に興味関心を持ち、バランスよく食べる知識を得る	
碧南市	「碧南人参の日」に合わせた「へきなん美人」メニューの給食提供	
碧南市社会福祉協議会 大浜保育園	自分なりのオリジナルホットドッグを作ろう	
碧南市社会福祉協議会 西端保育園	食育活動「とうもろこし」	
高浜市立高浜南部幼稚園	“だしを味わう和食の日”を知る ～だしを味わう～	
尾張旭市	皆が食べられる学校給食の日	
岩倉市	シェフのスペシャルメニュー	27
常滑市	コロナに負けるな！こどもスマイル応援事業 地元産品も一緒に応援します 学校給食グレードアップ大作戦	27
幸田町	父の日プレミアムランチ ～幸田ハッピーネスプロジェクト～	28

体験や交流を通じた豊かな人間性の育成と食の理解促進

取組主体、団体名	取組名称	ページ
尾張旭市	市制 50 周年記念食育絵本作成事業	28
東郷町立和合保育園	クッキングカードを通して食育を家庭へ広げる	29
愛知県国公立幼稚園・こども園長会(名古屋 市立第二幼稚園)	自分で育てて収穫した野菜を、おいしく食べよう	
愛知県国公立幼稚園・こども園長会(半田市 立宮地幼稚園)	みんなで育てておいしく食べよう(カレーパーティー)	
愛知県国公立幼稚園・こども園長会(常滑市 立青海こども園)	ジャガイモ おいしく育つかな	
愛知県国公立幼稚園・こども園長会(刈谷市 立小高原幼児園)	『落花生ってどうなるの?』-栽培に興味関心をもって取 り組もう-	
春日井市立第二保育園	環境指導(食育)、野菜栽培、今日の給食	
春日井市立桃山保育園	食育の日 ~楽しく食べる元気な子~	
春日井市立上八田保育園	食育の日、展示食、野菜栽培	
春日井市立白山保育園	野菜の栽培	
春日井市立藤山台保育園	食育 楽しい野菜づくり	
春日井市立神領保育園	野菜の栽培	
春日井市立貴船保育園	野菜の栽培	
春日井市立出川保育園	食育指導	
春日井市立柏原西保育園	野菜の栽培	
春日井市立玉川保育園	野菜の栽培・収穫、地域交流	
春日井市立外之原保育園	野菜や果物の収穫体験を通じた、地域交流	29
尾張旭市立あたご保育園	野菜の栽培と乾物の水戻し	
尾張旭市立川南保育園	夏野菜の栽培	
尾張旭市立中部保育園	イチゴジャム作り(栽培・体験)	
尾張旭市立西山保育園	野菜の調理体験	
尾張旭市立本地ヶ原保育園	栽培した野菜の収穫	
尾張旭市立柏井保育園	夏野菜の栽培	30
清須市	保育園さつまいも収穫体験	
清須市	食事への興味・関心	
東郷町立南部保育園	野菜の栽培と調子	
東郷町立音貝保育園	作って食べよう!夏野菜とサツマイモ	
半田市立板山こども園	米作り体験	
碧南市立羽久手保育園	身近な野菜に親しもう	

取組主体、団体名	取組名称	ページ
碧南市立天道保育園	サツマイモでつながる保育園と地域の輪	
碧南市立築山保育園	花壇で野菜を育てよう	
碧南市立日進保育園	地域の方との芋ほり体験	
碧南市社会福祉協議会 西端保育園	畑ですいか作り	
へきなんこども園	家庭菜園・稲作	
第2へきなんこども園	米・野菜を育てる	
刈谷市立富士松北保育園	野菜を栽培、収穫してみんなで食べよ	
刈谷市立富士松北幼児園	JA あいちと連携しての大根栽培	
刈谷市立富士松南保育園	自分で作った野菜を食べてみよう	
刈谷市立小高原幼児園	野菜を育てよう	
蒲郡市	夏の野菜を知ろう！育てよう！食べてみよう！	
田原市	食育講座	30
長久手市	朝食づくり講座	
愛西市食育推進専門部会	男子自立クッキング	
愛西市	親子教室	
幸田町	親子農業体験教室	
蒲郡市	親子魚料理教室	31
愛知県水産課	魚食の伝道師派遣事業	
西尾市	米づくり体験授業	
新城市	お茶の出前授業	31
蒲郡市	蒲郡市子ども農業教室	
愛知県食育消費流通課	中・高生料理レシピコンテスト入賞作品展示による食育の啓発	
愛知県保健体育課	あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト	
尾張旭市	あったらいいなこんな給食	
岡崎市	学校給食メニューコンクール	
刈谷市	「新型コロナをやっつけろ！食まると戦う STAY HOME 奮闘記」作品募集	32
西尾市	僕・私を作る！アイデア朝ごはんコンテスト	
日本労働組合総連合会	連合愛知 30 周年事業ここあファーム『親子 de 農体験』	32
春日井市、T・I・T ふれあい農園共同体 (ふれあい農業公園指定管理者)	あい農パーク春日井(春日井市ふれあい農業公園)	
清須市	レジャー農園、市民農園	
	農業体験塾	33

取組主体、団体名	取組名称	ページ
刈谷市	親子農業体験教室・親子農作物収穫体験教室	
西尾市	親子で稲刈り体験とおはぎづくりに挑戦！	33
豊川市	第8回とよかわおもてなしレシピグランプリ！	
生活協同組合コープあいち、生活協同組合連合会東海コープ事業連合	「おいしいのには理由（わけ）がある 産直若鶏と煮こみ酢」第1回オンライン学習会	34

日本の食文化や郷土料理等の理解と継承

取組主体、団体名	取組名称	ページ
飛島村・飛島村健康づくり食生活改善協議会	すくすく教室	
春日井市立前並保育園	食育指導、野菜の栽培	
春日井市立追進保育園	食育指導	
春日井市立大手保育園	食育の日	
清須市	人間関係とマナー	
東郷町給食センター	保育園児を対象とした食育の取り組み	
蟹江町、蟹江町保育所、蟹江町給食センター	食育指導と給食試食会	34
愛知県栄養教諭研究協議会	学校で使用する食育教材「お箸カード」の作成	35
瀬戸地域アグリカルチャー推進協議会	学校給食への地場食材利用拡大	
愛知県栄養教諭研究協議会	県産農畜水産物提供事業を利用した学校給食の献立作成と献立を活用した食育	36
愛知県保健体育課	愛知を食べる学校給食の日	
豊山町給食センター	愛知を食べる学校給食の日	
弥富市立小中学校	地元の旬を味わう和食給食の日	
あま市	「愛知を食べる学校給食の日」の実施	
飛島村立飛島学園	学校給食における地域生産者との連携	36
刈谷市学校給食センター	刈谷市産の食材を使用した献立の実施	
西尾市	愛知を食べる学校給食の日 ～JA 西三河から新鮮野菜寄贈～	
みよし市	みよし市産富有柿を使用した給食メニュー	37
蒲郡市	「愛知を食べる学校給食の日」の実施	
小牧市	小牧市 HP「おうちごはんを楽しもう」掲載	37
尾張旭市	農政講座「五平餅作り」「いちじくを使った米粉デザート作り」「みそ作り」	38
尾張旭市、JA あいち尾東	おこしもの作り講座	

取組主体、団体名	取組名称	ページ
清須市	保育園宮重大根収穫体験	
	小学校宮重大根栽培収穫体験	
北名古屋保健センター	食育講座 郷土料理を作ろう 教えて！じいちゃんばあちゃんの知恵	
大口町	“だしと和食”をテーマにした食育啓発	
扶桑町守口大根漬物組合、株式会社扶桑守口食品、扶桑町	守口大根収穫体験及び粕漬け体験学習	38
愛西市立保育園（佐屋北・佐屋中央・佐織）	栄養指導【出汁ってなあに？】	
岡崎市	地域での食育の推進事業	39
安城市	食育啓発チラシ（幼・保・こども園 園児及び保護者）	
西尾市	地産地消！コンニャクをつくろう	



食を通じて環境に優しい暮らしを築くために

食生活における環境への配慮の徹底

取組主体、団体名	取組名称	ページ
愛知県環境調査センター	中高年・シニア環境学習推進事業	
愛知県環境活動推進課	環境学習副読本「わたしたちと環境」の作成・配付	40
	東海三県一市グリーン購入キャンペーン	
尾張旭市	家庭用生ごみ処理機等購入補助	
愛知県環境活動推進課	エコアクション推進フェアの開催	
愛知県資源循環推進課	食品ロス削減環境学習プログラムブース出展の実施	40
	食品ロス削減イベントの開催	41
愛知県食育消費流通課	無駄や廃棄の少ない調理講習会	41
尾張旭市	3キリ運動	

農林水産業への理解と地産地消の一層の推進

取組主体、団体名	取組名称	ページ
愛知県農業協同組合中央会	農業教育用資料「愛知の農業」（冊子・DVD）の作成・配布	
愛知県農業計画課	あいちの農業用水展	42
	農地・水・環境のつどい	
愛知県畜産課	県産牛肉等学校給食提供推進事業	42
愛知県水産課	県産水産物学校給食提供推進事業	43
美浜町学校給食センター	愛知県産牛肉・名古屋コーチン肉無償提供事業の活用（食育指導における地産地消への理解度向上）	43

安城市	地産地消啓発	
	地産地消啓発チラシ	
	SNS を利用した食育啓発事業	44
	旬の食材を使用したメニューの販売	
安城市、愛知県立安城農林高等学校	地産地消啓発イベント	

農林水産業や食品産業における環境への配慮の徹底

取組主体、団体名	取組名称	ページ
愛知県水産課	県内における資源管理の促進	
日本労働組合総連合会	連合愛知 30 周年事業ここあファーム	45
小牧市	ドライブスルー型「フードドライブ」の実施	45
みよし市	東海学園大学へのみよし市産農産物贈呈	



食育を支える取組

食育に係る人材の育成と活動の充実

取組主体、団体名	取組名称	ページ
愛知県子育て支援課	保育士等キャリアアップ研修	
美浜町	保育所給食訪問	
愛知県食育消費流通課	学生料理レシピコンテストの開催	46
安城市	名古屋文理大学との連携事業	47
愛知県食育消費流通課	地域食育推進ボランティア研修交流会の開催	
愛知県知多農林水産事務所	令和2年度知多地域食育推進ボランティア研修交流会	47
清須市	食生活改善推進員再教育の実施	
	食生活改善推進員養成講座の開催	
碧南市	食ボランティア協議会研修会 ～栄養改善関連の書籍や食育絵本の紹介～	
公益財団法人愛知県学校給食会	「学校給食の献立を教材として活用した食に関する指導事例集」作成	
津島市健康づくり食生活改善推進協議会	コロナ禍における食育活動の取り組み	
西尾市	食育啓発用クリアファイルの作成	

関係者の役割分担とネットワークの充実

取組主体、団体名	取組名称	ページ
生活協同組合コープあいち	私の健康 食習慣チェック活動 BDHQ	
公益財団法人愛知県学校給食会	家庭でできる学校給食メニューの掲載	
	参考となる学校給食メニューの掲載	48
愛知県県民生活課	消費生活情報「あいち暮らしっく」の発行	48

いいともあいち運動の推進

取組主体、団体名	取組名称	ページ
愛知県食育消費流通課	いいともあいち運動シンボルマーク(あいまる)の貼付促進	49
愛知県知多農林水産事務所	「いいともあいち推進店」の登録推進	



VI 食育推進に関する問合せ先

◎愛知県

名 称	電話・ファクシ	電子メール・URL
農業水産局農政部 食育消費流通課 (総合窓口、農林水産関係)	TEL 052-954-6396 FAX 052-954-6940	E-mail shokuiku@pref.aichi.lg.jp URL https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/
保健医療局健康医務部 健康対策課 (健康福祉関係)	TEL 052-954-6271 FAX 052-954-6917	E-mail kenkotaisaku@pref.aichi.lg.jp URL https://www.pref.aichi.jp/soshiki/kenkotaisaku/
教育委員会事務局学習教育部 保健体育課 (教育関係)	TEL 052-954-6839 FAX 052-954-6965	E-mail hoken-taiiku@pref.aichi.lg.jp URL https://www.pref.aichi.jp/soshiki/hoken-taiiku/

◎関係団体等

名 称	電 話	URL 等
愛知県栄養教諭研究協議会	—	http://www.aichi-ek.com/
愛知県漁業協同組合連合会	052-971-3501	
愛知県経営者協会	052-221-1931	https://www.aikeikyo.com/
愛知県国公立幼稚園・こども園長会	052-793-3851	(問合せ先 名古屋市立二城幼稚園)
愛知県小中学校 PTA 連絡協議会	052-251-8820	http://www.aichi-syoucyuu-p.com/
愛知県小中学校長会	052-261-8152	http://aikochou.ec-net.jp/
愛知県食生活改善推進員協議会	052-954-6271	(問合せ先 県健康対策課内)
愛知県農業協同組合中央会	052-951-6940	http://www.chu.aichi-ja.or.jp/
愛知県農業経営士協会	052-954-6413	(問合せ先 県農業経営課内)
愛知県酪農農業協同組合	0564-53-2450	
愛知消費者協会	052-962-2530	
一般社団法人愛知県歯科医師会	052-962-8020	https://www.aichi8020.net/
一般社団法人愛知県調理師会	052-913-5271	http://kenaicho.la.cocan.jp/
一般社団法人愛知県薬剤師会	052-953-4555	https://www.apha.jp/
公益財団法人愛知県学校給食会	0562-92-3161	http://aigaku.org/
公益財団法人愛知県健康づくり振興事業団	0562-82-0203	http://www.ahv.pref.aichi.jp/ahpf/index.htm
公益社団法人愛知県医師会	052-241-4138	https://www.aichi.med.or.jp/
公益社団法人愛知県栄養士会	052-332-1113	https://www.aichiken-eiyoushikai.or.jp
社会福祉法人愛知県社会福祉協議会保育部会	052-212-5509	https://www.aichi-fukushi.or.jp/
生活協同組合コープあいち	052-703-6022	http://coopaichi.tcoop.or.jp/
日本労働組合総連合会愛知県連合会	052-684-0005	https://www.rengo-aichi.or.jp/
農村輝きネット・あいち	052-954-6409	(問合せ先 県農業経営課内)

愛知県食育推進会議

事務局 愛知県農業水産局農政部食育消費流通課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6396 (ダイヤルイン) E-mail shokuiku@pref.aichi.lg.jp

「食育ネットあいち」Web サイト <https://www.pref.aichi.jp/shokuiku/shokuikunet/>

デザイン/愛知県公立大学法人(愛知県立芸術大学 佐藤直木研究室)



2021年版